

アセンションBOOK 2

天の川銀河の物語 N02

2013年9月~10月

Peace of Galactic Cluster

天の川銀河の物語 2

ペテルギウスのダイヤモンド

ンド



白鳥の六芒星物語 目次

- 第1章 ペテルギウスのダイヤモンド
- 第2章 生命の創造を行う星々の秘密
- 第3章 旅の仲間達とウサギ座からのメッセージ
- 第4章 ウサギ座の闇を光に変える
- 第5章 リゲル星に向かう光のマスターと女神達
- 第6章 リゲル星の悲しみの女神達
- 第7章 心の闇に飲み込まれた者達
- 第8章 天空のクリスタルから虹の光をつなぐ

作者 瀬戸武志&宇宙の光

アセンションブック

<https://www.k-suai.com/sp/index.html>

宇宙の光公式HP

<http://hikari1.com/sp/index.html>

アセンション評議会

<http://s-sun1.com/sp/index.html>

アメブロ光の世界へ

<http://ameblo.jp/e-stone1/>

Eメール TAKESHI yume34@k-suai.com

イラスト えんじえる (佐藤弘之)

アメブロ <http://ameblo.jp/angel-art2010/>

星座のイラストは下記からお借りしました。

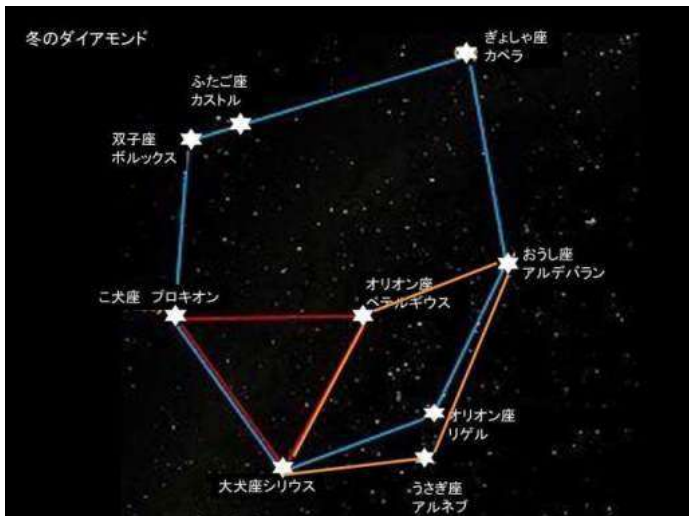
88 星座図鑑 自然学習館

http://www.study-style.com/index_seiza.html

第1章 ペテルギウス星のダイ

アモンド

生命創造を行う星々の救済



PART1 ペテルギウスのダイヤモンド 生命創造を行う星々の救済

「宇宙の光」の新しいミッションの始まりです。

白鳥座とこと座のベガを含む「白鳥の六芒星」の正常な働きを戻し、アルタイル星を闇の支配から救い出した「宇宙の光」のメンバー達。再び、自らのスピリットであるシェンロンと共に、あたらしい冒険に出かけます。

今回はオリオン座のペテルギウス星の創造主とシリウス星の女神アテナからのお願いです

それでは、女神アテナから、オリオン座のペテルギウス星を中心とした光のダイヤモンドについてお話をさせていただきます。

皆さんの星座に関する知識では、「冬の大三

角形」として、オリオン座のペテルギウス星、おおいぬ座のシリウス星、小熊座のプロキオン星が、星座を探す時の目安としてよく知られています。

私達は、ペテルギウス星を中心として、シリウス星、プロキオン星、ボルックス星、そしてカペラ星、アルデバラン星、リゲル星が一つになって「ペテルギウスのダイヤモンド」と呼ばれるグループを作っています。

ペテルギウス星を中心として六角形の頂点に位置する星たちは、それぞれが特有の生命を創造するための役目をもっています。

そしてペテルギウス星に集められた各星々の生命創造の為にエネルギーは、オリオン座の三ツ星やリゲル星によって、生まれたばかりの星や新たな生命を生みだそうとする星に送られます。

もちろん地球にも、このエネルギーは送られ、地球に様々な生命を生みだしてきました。

しかし、リゲル星に置いて大変な問題が発生しました。

それはリゲル星を守護するマスター達が闇に落ち、リゲル星の大切なクリスタルやクリスタルを守護する女神達を傷つけてしまったのです。

その為にリゲル星は闇に落ち、「ペテルギウスのダイヤモンド」の連携が崩れてしまったのです。

このままでは、天の川銀河の星々に新たな生命が生まれなくなり、星々が衰退していきます。

皆さんの力で、リゲル星を闇の中から救い出し「ペテルギウスのダイヤモンド」の働きを復活させていただきたいのです。

女神アテネは、私達にメッセージを伝えると、ペテルギウスのダイヤモンドに関わる星々の事を詳しく教えてくれました。

○ペテルギウス星の門番 シリウス星

シリウス星は門番の役目をします。

このペテルギウスのダイヤモンドに、邪悪なエネルギーや星の人達が入らないように、星々を守護しています。

そして、これらの星々だけでなく、天の川銀河の星々も見守っています。

それぞれの星に住む人達が、自分達の手で幸福に生活し、成長していく事をサポートします。

○小犬座プロキオン星 女神アテナのサポート

プロキオン星と小犬座は大犬座のシリウス星たちの活動をサポートします。

シリウス星によって見守られている星にとどまり、その星の警護に当たるのが小犬座の役目です。

小犬座は非常に純粋な叡智に守られています。

闇の力をはねのける光の盾を所有し、星の人達を守ります。

○ふたご座のボルックス星とカストル星

ボルックス星は海の星です。

マーメイド達がそこに暮らし海の生命達を育てています。

カストル星は、トート神によって守護され、

鳥などの生命を育てます。

また人々に自由や意識の成長のためのエネルギーを送ります

○ぎょしゃ座のカペラ 癒しの女神

ぎょしゃ座のカペラの女神は、とても優しい癒しの女神です。

星の人達が、困難な状況に陥り苦しんでいるときに、その心と魂を癒し力づけます。

癒しの神殿によって皆さんの活動をサポートすることでしょう。

○おうし座のアルデバラン 勇敢な騎士団たちの星

おうし座は非常に力強い星であり、この星系を守護するアルデバランの騎士団が存在しています。

彼等は、星々を守護するだけでなく、皆さんに行動することのパワーと勇気を与えます。女神アテナと共に、星々の守護にあたります。

○ウサギ座 傷付けられた愛の精霊たち

ウサギ座は、もともと気性の荒いオリオンを癒し、愛の気持ちを目覚めさせるための存在です。

ただし神話でも、オリオンによって踏みつぶされてしまいました。

このウサギ座の精霊たちは、リゲルの人によって傷付けられてしまいました。

○オリオン座のリゲル星 闇に落ちた星

オリオン座は、もともとこのペテルギウスのダイヤモンドの大切な働きを担う星でした。創造主がいるペテルギウス星とも同じ星座の中に属し、常にパワフルで輝きに満ちています。

リゲル星の働きは、惑星の自然や生命を育てることです。

リゲル星のマスター達は、創造主によって生み出された星に降り立ち、その星の生育を助け、その星に生命が育つような自然環境を整えます。

その整えられた場所に、生命が生まれ、やがて叡智ある存在が誕生してくると、シリウス星を中心とした星の意識がそこに入り、叡智ある存在を育てることとなります。

今リゲル星は、闇の力によって支配されているため、闇の力が広がらないように、特別な力で封印されていますが、リゲル星のマスターと女神達を光に戻すことはできます。

リゲル星が再び復活することによって、このペテルギウスのダイヤモンドの力も再度働き始めます。

その時、天の川銀河には、再び生命を生み出すための働きが戻ってくるのです。

第2章 生命の創造を行う

星々の秘密

PART1 北極星の創造主に協力をいただく

「おおきな白鳥の六芒星」を救済し、地球へと光を送る「光の通路」を作り終えた私達は、女神アテナの指示により新しい仕事にはいる事になりました。

それが天の川銀河に生命を創造する「ペテルギウスのダイヤモンド」を復興させる仕事です。

オリオン座のペテルギウス星は、とても大きく輝きのある星です。

事前に女神アテナ様と共に、ペテルギウス星に伺い、ペテルギウス星の創造主にお会いしました。

そして星々の状況を確認したうえで、私達の行動は開始されました。

今回行った最初の「星のツアー」では、まずペテルギウスのダイヤモンドの星々に入る前に、北極星の創造主と大天使メタトロン様に協力をお願いするために、小熊座のコカブ星へと向かいました。

金太郎の姿で私達を迎えてくれる大天使メタトロン様にご挨拶をして、宇宙の図書館に入れてもらいました。

「偉大なる大天使メタトロン様、これから私達は、女神アテナと共に、ペテルギウスのダイヤモンドを形成する星々を回ります。私達にどれだけのことが出来るかわかりませんが、どうかお力添えをお願いいたします

す。」

大天使メタトロン様は喜んでくださっています。

「そうですか、皆さんの活躍が認められたのですね、素晴らしいことです。

とくにオリオン座のリゲル星は大変な場所ですから気をつけて行ってください。

この星域は、素晴らしい叡智とパワーに満ちているマスター達も多いので、あなた方にとっても素晴らしい学びとなるでしょう。」

私達のハートに、宇宙の図書館から「ペテルギウスのダイヤモンド」に関わる星々やマスター達の情報がどんどん入ってきます。

その後、大天使メタトロン様と共に北極星の創造主の元にお伺いしました。

創造主は、今まで以上に大きくパワフルな存在になっています。

私達が「ペテルギウスのダイヤモンド」に取り組むことをお話しすると喜んで協力してくださることになり、私達一人一人に魔法のワンドをくださいました。

魔法のワンドはとてもユニークで、その人にとって必要なエネルギーがワンドの形で表れてきます。

しなやかな生命力を表す木のワンドもあれば、能力を開発するクリスタルのワンドもあります。

私達は、創造主から、特別なエネルギーをもらった後に、創造主の星&コカブ星から、ペテルギウス星の入り口であるシリウス星に光の通路を作りました。

光の通路が出来上がると、その通路を通して、北極星の創造主の光が、ペテルギウス星の創造主とその星々をサポートすることができます。

PART2 大犬座のシリウス星 女神アテナの星



大犬座のシリウス星は、女神アテナの星でもあります。

女神アテナは、私達の活動をいつも支えてくれる素晴らしい女神です。

特に、私が自信を失った時や、物事を解決するときには力が足りないと思った時に、私達を元気づけてくれます。

女神アテナと初めて出会ったのは、私達がシェンロンと仲良くなって自由に移動できるようになった最初の時でした。

富士の金龍を癒して、「レムリアの土の神殿」を守ろうとしていた時に、大きな闇の力に襲われ、「レムリアの土の神殿」は破壊されてしまいました。

その時に、宇宙の偉大なるマスターに呼ばれ、私達の守護者として女神アテナとセントジャーメインをつけてもらったのです。

それ以来、女神アテナとセントジャーメインは、私達の活動を見守り助けてくれました。

私達がシリウス星に向かうと、星の外側で女神アテナ様が待っていました。

ずっと待っていたのよ！という感じです。

私達は、女神アテナに案内されてシリウス星の中に入っていきます。

すると目の前に、勇壮な姿をした女神アテナのギリシア風の神殿が見えてきました。

女神アテナの神殿の中には、女神アテナの癒しとエンパワーメントのプールがあります。私達は、そこでゆっくりと心と体を癒しながら、女神アテナのパワーによって元気づけられます。

私達に女神アテナは、語りかけてきます。

「私達のシリウス星のマスター達は、これから成長していく星々をいつも見守っています。

もちろん地球もそのひとつです。

皆さんはまだ、宇宙を知りません。

宇宙は、天体望遠鏡の中だけに存在しているのではなく、皆さんの心の中にも存在しています。

目を閉じて、一つ一つの星に意識を合わせてみてください。

中には、皆さんの呼びかけに答えてくれる星もあるかもしれません。

私達シリウスのマスター達は、この天の川銀河の星々を見守っています。

皆さんが、宇宙で活躍するたくさんの人々と共に活躍することが出来るように。

この宇宙は決して心優しい人々だけが住んでいるのではなく、人をだましたり利用しようとする存在達もたくさんいるのです。

皆さんは、これからその様な世界も見るでしょう。

しかしくじけないでください。

希望を持ってできる限りのことをしてください。」

私達は、女神アテナの言葉に、これから起こ

る事の大切さを感じとります。

メンバー達も、最初はプールの中で水をかけながら遊んでいたのですが、今は真剣な顔をしています。

準備が整うと、創造主に挨拶をするために創造主がいらっしゃるペテルギウス星へと向かいます。

PART3 オリオン座のペテルギウス星 生命の循環をもたらす創造主の星

昨日作っておいた光の通路を使って、私達はペテルギウス星へと向かいます。

ペテルギウス星はとても豊かな光にあふれた星です。

私達が星につくと、自分達の体の細胞一つ一つが黄金色に輝いてくるような気がします。

ペテルギウス星につくと、この星系を司る創造主が待たれています。

星系を司る創造主と言うのは、この天の川銀河や宇宙を作られた大創造主から生み出された創造主で、各星域を担当される方の事を言います。

星域ごとに役割が決まっていて、それぞれの星に生きる生命を創造し育てると共に、星々が自らの役割を果たすことを見守っています

「皆さん、このペテルギウス星へよくおいでくださいました。

皆さんのご活躍は、北極星の創造主からよく聞いております。

本当にありがとうございました。

闇に落ちてしまった星は、星が存在する次元が降下するために私達は入れなくなります。

その為に皆さんのように異なる次元を自由に旅することが出来る人々が必要となるのです。

どうか今回もよろしくお願いします。」

私達は、偉大なる創造主の前でかしくまって立っています。

「偉大なる創造主よ、私達は宇宙の事が何もわからない地球人です。

皆さんと共に活動することで、私達の知らないことをたくさん教えていただいて感謝しています。

私達は、この宇宙の役に立てるならば、出来る限りの事はしたいと思っています。」

ペテルギウス星の創造主はとても喜んだ表情を見せてくれます。

「私が担当している星域は、この「ペテルギウスのダイヤモンド」に含まれる星座たちです。

この星域の役割は、新しく生まれた星に生命が生まれ育つように、星の環境を整え、水中生物や動植物をはじめとした生命を生み出して行く手助けを行う事です。

そしてその中から知性を持った生命体が生まれて来たら、私達はその生命体を見守り、叡智ある存在へと育てていきます。

もちろんこの宇宙には大きな原則があり、一つの星の生命達に直接干渉することは禁じられているので、成長を見守るといっても、何億年もかかる場合があります。」

と創造主は大きな声で笑います。

「しかし、その生命の循環を作り出すための大切な働きを持つリゲル星が闇の力の影響を受けてしまいました。

おそらくリゲル星のマスター達に問題が起きたのでしょう、突然リゲル星が闇におおわ

れ、次元降下を起こしてしまったのです。
リゲル星が次元降下を起こし光の世界から遠ざかったことで、ほかの星々から切り離され、ペテルギウスのダイヤモンドの働きが発揮されなくなりました。
どうか、「ペテルギウスのダイヤモンド」に属する仲間達と共に、一緒にリゲル星にはいって、この問題を解決してもらえませんか。」
創造主はすごくまじめな顔をしています。

私達の役割は、ペテルギウス星の星々に光の通路を作り、ペテルギウスのダイヤモンドに含まれる星々を再びつなぎ活性化するとともに、オリオン座のリゲル星を闇の支配から救い出すことのようにです。
そうすることで、ふたたびペテルギウス星の創造主の光が、生命の循環の輪を回し始めます。

「偉大なる創造主よ、あなたのお気持ちはよくわかりました。
私達は、リゲル星を救出できるように力を尽くしたいと思いますので、よろしくお願いします。」
私の言葉に、創造主は、にっこりとお笑いなられます。

私達は、ペテルギウス星の創造主から、「創造主の印（しるし）」をもらいます。
創造主から「創造主の印（しるし）」をいただくと、自分の額や体に創造主のサインが出てくることがあります。
私の場合は黄金色の六芒星などですが、人によって異なるサインがあります。
葵さんや美緒さん達もお互いの額に浮かび上がった黄金色のサインを見てすごい、すごい、と叫んでいます。

また創造主の「創造主の印（しるし）」は、他のマスターの光と異なり、私達の眠っている能力を呼び覚ましパワーアップさせる働きがとても強いのです。

私達の体の内側からも、大きな光が広がっていくようです。

私達の中で、どのような能力が目覚めてくるのか、きっと、この旅を通してわかってくることでしょう。

創造主からのエンパワーメントを受けた後、次の星座である小犬座に向かいます

PART4 小犬座のプロキオン星 魂の守護を行う星



小犬座はシリウス星の女神アテナ様のサポートを行う星です。

まるで親犬に付き添う子犬のように女神アテナと共に働きます。

小犬座につくと、そこは植物たちが点在する荒野のように見えます。

若い男性のマスターが現れますが、本当の姿は、頭部が犬のような感じの人です。

まるでエジプト神話のアヌビスのようですね。

女神アテナが、私達に説明してくれました。
「この小犬座のマスター達の役割は、エジプト神話のアヌビスの働きにも似ているかもしれませんね。

彼らもアヌビス神と同じように、魂を守る神ともいわれ、亡くなった人の魂を冥界に運ぶ手助けを行います。

プロキオン星のマスター達は、生まれてくる魂たちの守護を行っているのですよ。」

プロキオン星のマスター達の働きは、本当に大切な働きをするようです。

「女神アテナよ、地球から来られた方というのはこの方たちですか。」

プロキオン星のマスターは、女神アテナの返事を待ってから話し始めました。

「それでは、偉大なる地球の皆さん、プロキオン星へようこそいらしてくださいました。まるで荒涼とした星ですので、何もお見せする物がなくて大変申し訳ありません。

私達は、主にこの星のスピリチュアル・レベルに存在しているものですから、星の物理的な世界には何もありません。

もちろん、何も無いことで、多くの侵略者たちが来ることを防げますので、私達はとても静かな環境で、人々の魂を取り扱うことができます。」

美緒さんが、恐る恐るプロキオン星のマスターに聴いています。

「皆さんは、死んだ人の魂も見えるのですか。」

「もちろんです。

ただし私達には、死んでいる、生きているという判断はありません。

全ての魂とスピリットは生き続けています。ただ、人の体に今宿っているか、宿っていない

いか、という違いだけです。

魂は人の体に宿り、星に降りて様々な学びを行います。

その学びが終われば、私達の元に戻り、次に行く場所を決めるまでここに滞在します。

ご希望があれば、皆さんの魂も、しばらくここに滞在されますか。

丁寧にお世話させていただきますよ」

プロキオン星のマスターはにっこりと笑いかけます。

「それって、私達の肉体が死んじゃうってこと」美緒さんが尋ねます

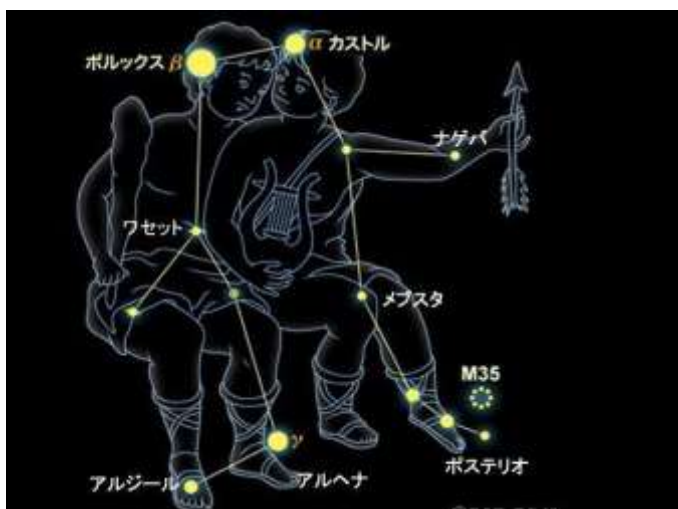
「地球ではそのように言うようですね。」とプロキオン星のマスターが答えます。

宇宙の光の女性達は、「きゃ〜」「それはダメ！」と言って騒いでいます。

女神アテナもプロキオン星のマスターもそれを見て大笑いです。

結構茶目っ気のあるマスターのようです。

PART5 ふたご座のボルックス星



次に向かったのはふたご座のボルックス星です。

ボルックス星は驚いたことに、海の惑星です。

海の中に入ると、魚達はもちろん、カニやエビなどの甲殻類やカメなども泳いでいます。地球の海にも良く似た光景に、何とも不思議な感じがします。

私達の周りをずっと泳いでいるカメがいて、とても親しげな顔をしていますので本当の姿を見せていただけるようお願いしました。

するとカメは髪が長いマーメイドの様な女神に変わり、この星のマスターであることを告げます。

その姿を見た遥さんが、マーメイドの女神に声をかけます。

彼女はマーメイドやユニコーンが大好きなのです。

「マーメイドの女神さん、あなたにあえて私達はとてもうれしく思います。

この海はとても素敵な海ですね、とても穏やかで、懐かしい気がします。」

マーメイドは優しく微笑んでいます。

「もちろんです。

この海は全ての生命の源です。

最初の生命は海から生まれるといわれますが、皆さんの遺伝子の中にも海の生命だった時があるのです。

ここに来ると、あなたが海の生命であった時の遺伝子が活性化させられて懐かしく感じるのでしょうか。

あなたは、地球で生まれたから、人間になったけれど、もっと海が多い星に生れていたら、私のようにマーメイドになっていたでしょうね。」

「きっと、私はマーメイドになっていたと思います。」

私はよく海の中で魚たちと共に泳いでいる夢を見るのですよ。

そして、目が覚めたら、其のままマーメイドになっているのではないかと思う事があります。」

遙さんをほっておくと、このままこの海でマーメイドになってしまいそうです。

「それでは、マーメイドの女神よ、」と私は2人の会話を中断させます。

「この星の役目を私達に教えていただけませんか。」

「あっ、そうでしたね、私もとても懐かしい気持ちがして。」と女神は私の方を振り向きます。

「この星で行っているのは海に生きる生命達の「種」をつくる事です。

皆さんの地球だけでなく、多くの星には海があります。

そして海の中から生命が生まれてくるのです。

海の中に宿った小さな生命が少しずつ進化して、小さなプランクトンのような生命から、魚やカニやエビなどに進化していくのです。時には、イルカやクジラのような巨大な哺乳類が生まれることもあります。

海は女性の子宮と同じです、生命を生み育む場所であり、守り続ける場所なのです。

そして、子宮から子供が産み落とされるのと同じように、時が来たら大地に上がっていく生命達もいます。

私達の役割は、生命の源である様々な「種」を作り出すことなのです。」

私達は、今、生命を生みだす源となった海の中にいて周りを見渡しています。

プランクトンの様な小さな生命、魚たち、海の底の土に隠れるように動いている生命もたくさんいます。

これらの生命一つ一つが輝きに満ちていて特別な存在のように見えます。

それは、これらの生命が、ただの生命ではなく、その生命の「種」として存在しているからでしょうか。

「そうです。TAKESHI さん。

この海に存在しているものは、生命の「種」なのです。

純粋な遺伝子といってもよいでしょうね。

新しい星が生まれ、海が出来上がったら、マスター達はここから、生命の「種」をもってその星にいきます。

そして、その星の海に生命の「種」を入れるのです。

そこから、その海に多くの生命達が広がり増えていきます。

それを見て、次はその生命達を食料とできるような、少し大型の生命の「種」を入れていきます。

それを何度も繰り返しているうちに、海はとても豊かな生命の宝庫となっていくのです。」

「海の中から生命が陸に上がる時は、誰がそれを決めるのですか。」と私は尋ねました。

「それは、その星の宿命ね、どのような生命が大地に満ち育っていくかは、創造主と大地の女神達で決めるようですね。

私達の仕事は、その「種」を立派に育てるところまでです。」

マーメイドの女神はにっこりと笑います。

私達は、女神のお礼を言うと、ふたご座のボルックス星を出てカストル星に向かう事にしました。

PART 8 双子座のカストル 風の中の生命をつかさどるトート神

次は、ふたご座のカストル星へと向かいます。ボルクス星は、海の中にある世界が広がり、魚たちやマーメイドたちが主人公の星でした。

まさに海の中にある生命創造の世界を見せてくれる感じでしたね。

今回訪れたカストル星は、風の世界です。私達が最初に降り立った場所は、まるでアメリカのセドナのような岩肌の世界、ところどころに樹木や草が点在します。しかしながらシェンロンで星の上を巡っていると、緑豊かな森も見えます。

私達は、見晴らしの良い崖の上で、この星のマスターと出会いました。

この星のマスターは、体は人ですが、顔はくちばしの長い鳥のような顔をしています。まるでエジプト神話に出てくるトート神です。

トート神とは、私は以前から交流がありました。

私の初期の頃のチャネリングメッセージの送り手であったのが、トート神なのです。

私は、風に向かって勇ましく立っているマスターに挨拶をします。

「偉大なるカストル星のマスターよ、私達は地球から来た者達です。」

私がそう言うと、彼は私をみて、静かにするようと言います。

「聞いてごらん、風の音を、風は生命を育て、羽ばたかせ、自由を与えるんだ。」

私達は目を閉じ、風の音を聞いています。

心の中で風が舞い、私達が持っている苦しみや悲しみの感情をどこかに取り去っていきます。

私達の心がとても軽やかになり自由になります。

私達は、目を閉じたまま、風の流れに乗って大空を飛翔している姿を見えています。

しばらく無言のまま静かな時間が過ぎ去りました。

トート神がやがて口を開きます。

「この星では、風に舞う存在達を育てているんだ。

もちろん鳥や羽をもつ虫などの生命がここから育っていく。

彼らは自由で叡智に満ち、風の音をきき、星の導きをうけて旅をする。

それは、生命達に素晴らしい精神の飛翔の時を与えるだろう。」

ボルックス星が、水の中の生命創造だとしたら、カストル星は大気の中の生命創造のようです。

トート神は私達に、風の生命の特質を教えてくださいました。

そして、私達人類には、羽がないので独自に飛ぶことができないのだが、生命の自由は十分に活用することができるという事で、高い山の溪谷の上に立ち、私達の精神の飛翔を行う方法を教えてくださいました。

トート神は偉大なる時間と空間のマスターであり、生命あるものの叡智をつかさどります。

このトート神との出会いは、私達にとっても大きな助けとなりました。

たとえば、私達が今使っている闇のエネルギーを捕えるための光の箱も、四角形の箱でな

く、ピラミッドを上下に組み合わせたマカバタイプにすることも教えていただきました。

別の機会に、この星を訪ねた時も、トート神はエジプトの十字であるアネクを使用して、その人のこだわりやとらわれから自由になる方法を教えてくださいました。

私達は、今夜の星のツアーをここで終了して、風のように軽やかに地球に帰ることにしました。

第3章 ウサギ座からのメッ

セージ

PART1 ウサギ座からのメッセージ

私達は、前回の星のツアーでふたご座まで回ってきました。

そして次回の星のツアーの時を待つ間に、葵さんがメッセージを受け取ったようです。

「どうか助けてください。

私達の愛の楽園は踏みにじられ、痛々しく傷ついています。

オリオン座のリゲル星から来た人たちによって、私達の世界の人々は苦しめられています。

どうか、私達を助けに来てください。」

葵さんはこのメッセージを受け取るとともに、やせ細った精霊たちの姿が見えていたようです。

私はすぐに女神アテナにこのことを問いあわせました。

「TAKESHIさん、実は、私達の中でもそのことが大きな問題となっているのです。

リゲル星は、このペテルギウスのダイヤモンドの中心的な星です。

この星が、闇に支配される事で、リゲル星の人々は正しい気持ちを失ってしまいました。

そして、自分達よりもはるかに力が劣るウサギ座の人達に、その欲望のはけ口を求めたのです。

ウサギ座のアルネブ星や二ハル星の人達はとても優しく愛情深い人たちです。

その為に傷つけられて深い苦しみを追って

います。

このままでは、ウサギ座の星も闇の支配をうけてしまいます。

どうか助けてあげてください。」

私は、ウサギ座で苦しんでいる人達を想像するととても悲しい気持ちになります。

純粹で愛に満ちた人達が傷つけられるのは、どの世界でもある事ですが、それを許してはいけけないのです。

私達は、次回の星のツアーでは、更なる仲間を増やした後に、ウサギ座の救出に行くことにしました。

PART2 ぎよしゃ座のカペラ 偉大なる癒しのマスター イシス様

今日の星のツアーは、ふたご座の横にあるぎよしゃ座から始めることにしました。

私達がシェンロンと共にぎよしゃ座に降り立った時、すでに女神アテナ様は、私達を待っていてくれて、ぎよしゃ座の神殿へと、私達を案内してくれました。

ぎよしゃ座は、おだやかな草原と樹木が立ち並ぶ優しいエネルギーを持った星です。

流れる川も緩やかで、春の心地よい日差しを思い浮かべさせます。

私達は、ぎよしゃ座の神殿に着きました。

両側を美しい花壇で囲まれた神殿は、とても優しいエネルギーを持つ癒しの神殿です。

ペテルギウスのダイヤモンドの星々のマスター達は、エジプト神話の神々のイメージを伴って現れることが多いのですが、ぎよしゃ座のカペラ星にいらしたのは、イシス様でした。



イシス様とは、他の星でもお会いしているのですが、このカペラ星のイシス様は、主に生命の癒しを担当されるようです。

「地球の皆さん、よくおいでくださいました。心から歓迎いたします。

話は女神アテナ様からも聞いておりますので、私達もできうる限りの協力を行いたいと思います。

皆さんが行われていることは、このペテルギウスのダイヤモンドに属する星々だけでなく、天の川銀河全体にとっても大切に重要なことです。

皆さんの旅の途中には、多くの傷つき苦しんでいる人達がたくさんいます。

私達の神殿に運んでいただければ、アスクルピオス様ともご連絡を取り、手厚く看病が出来ると思います。

皆さんがこの仕事に入られたという事で、私達も多くの仲間を様々な星から呼び集め、出来る限りの事は致しますので、ご安心ください。」

イシス様は、私達の旅には同行せずに、癒し

が必要な存在、負傷している存在があれば、私達の神殿で受け入れますとおっしゃってくださいました。

特にこの星では、薬草をたくさん栽培しているという事ですので、体の傷を癒すにはよさそうです。

私はアルネブ星の住人の事がとても気になっていましたので、イシス様の協力をいただけることがわかりましたので安心です。

私達は、ウサギ座の事が気になりますので、この星を退出して、最後のおうし座へと向かう事にしました。

PART3 おうし座のアルデバラン星 勇者の星

私達は、女神アテネの指示で、ペテルギウスのダイヤモンドの中でも、シリウス星と並んで力強い働きをするおうし座のアルデバランへと向かいました。

アルデバラン星は、険しい山々もありとても勇壮な感じの星です。

澄み渡った空気が心地よく気が引き締まるような力強さを持った星です。



女神アテナが、私達をアルデバラン星の勇者の神殿へと導いてくれました。

そこには、とてもたくましい姿をしたアルデバラン星の騎士団たちが、剣を胸に掲げて私達を待っています。

勢ぞろいした勇者の姿を見た美緒さんは、「かっこいい！」と歓声を上げています。その声に女神アテナも苦笑い。

私達は、勇者の神殿の中に入っていきます。石造りのしっかりとした神殿は、まさに騎士団の神殿そのものです。

アルデバラン星の騎士団の団長が、私達が入ってくるのを待っています。

ひときわ大きな体をした団長は私達を迎えると、凜とした声であいさつをしてくれます。

「地球から来てくれた勇者たちよ。皆さんにお会いできたことを心よりうれしく思います。

私達は、この天の川銀河の平和のために、女神アテネと共に日々警護を行っております。オリオン座のリゲル星とウサギ座の問題も、私達は非常に心配しております。

しかし、私達だけでは、これらの星に入ることが出来ません。

皆さんが、私達と共に活動してくださることで、長い間困っていたこの問題にも決着がつくのではないかと考えております。

どうかよろしくお願いいたします。」

さすがに騎士団の団長です。

力強い言葉に、私達も元気づけられます。

「アルデバラン星の騎士団よ、皆さんの正義感にあふれた力強い姿は、私達にとっても大変な誇りです。

皆さんと共に働ける私達こそ多くの事を学べると考えております。

どうかよろしくお願いします。」

私は騎士団の団長としっかり握手をしました。

彼は、私達に宇宙の騎士団について少し話をしてくれました。

「私達騎士団は、どの星座にもいるというわけではなく、重要な星座や警護を得意とするような種族がいる星で作られます。

それは、創造主様の意図により、騎士団を任じられた種族によって騎士団が構成されます。

この天の川銀河にはいくつかの有名な騎士団がいます。

機動力と叡智に優れたペガサス騎士団、すばやくてパワフルなケンタウルス騎士団、そして天の川銀河でも勇壮な騎士団として知られるしし座の騎士団。

更にパワーと正義感にかけては誰にも負けない大熊座騎士団もいます。

彼らは、人間型の騎士団と違って、非常にパワフルで俊敏です。

人間型の騎士団は、器用で頭のよさそり座騎士団、様々な困難を乗り越える力を持ったウミヘビ座騎士団、そして私達、おうし座騎士団などが中心的な立場で働いていますが、私達をまとめるような立場にいるのがヘラクレス座の騎士団です。」

団長は、私達と共に来たヘラクレス座のアルケイデースに敬意を払うように尊敬をこめて話します。

「各騎士団は、それぞれに伝統としきたりを重んじて活躍しています。

そして、私達の共通の目的は、天の川銀河の平和です。

皆さんが、これからも天の川銀河の平和のために活動なさるならば、必ず様々な星座の騎士団たちが、皆さんを助け共に働いてくれることでしょう。

私達も、その事を心から願っております。」

私達は、しばらくの間、リゲル星とウサギ座の事について話をしました。

「TAKESHIさん、リゲル星については、その星のマスター達に大きな問題があったと聞いておりますので、まずマスター達を探し求めて様子を調べなければなりません。もちろん危険もたくさんありますので、アルケイデース様と私達が常に御守護をさせていただきます。

さそり座の騎士団とペガサス騎士団にも大切な時はお手伝いをお願いすることとなりますので、さそり座の団長さんもお同行お願いいたします。」

私達はリゲル星もそうですが、ウサギ座の人々の様子も大変不安に思っていることを団長につたえます。

アルデバラン星の騎士団の団長は、「もっともです。」という顔をしています。

「TAKESHIさん達がメッセージで受け取られましたように、リゲル星の人がウサギ座に入り乱暴を働いているという情報も私達のところまで届いています。

そうすると、まずウサギ座の方から回るのが先かと思われれます。

私達はもう準備ができておりますので、TAKESHIさんの指示ですぐにでも出発できます。」

さすが、連戦練磨のアルデバラン星の騎士団です。

準備は周到のようです。

ウサギ座のアルネブ星は、オリオン座のすぐ下であり、私達もとても気に入っている星です。

神話でも、乱暴者のオリオンに愛の心を持つように神様が送ってくれたウサギなのに、オリオンに踏みつぶされて死んでしまったという話があります。

私達は、この日リゲル星の救出を前に、アルネブ星の人々を先に救出することにしました。

私達が、アルデバラン星の神殿で出発を待つ間、野原を歩いていました。

すると遙さんが、私達にメッセージを送ってくるケンタウルス(半馬人)を発見しました。遙さんは、すぐにケンタウルスに近寄り、話を聴いています。

ケンタウルスの話では、彼らのケンタウルス座も闇の力に少なからず影響を受けており、大変混乱している状態にあるようです。

ケンタウルスは、私達の仲間となり、私達の事を助けますから、自分たちの星も救ってほしいという事を行ってきました。

ケンタウルス達は、とても早く移動できますので、星の人達を急いで運んだりすることが出来ます。

私は、アルデバラン星の騎士団の団長に、このことを相談しました。

「TAKESHIさん、実はケンタウルス座の騎士団にも、何か大きな異変があったことを私達も知らされています。

その原因や状況は、現在団長同士の連絡網でも、彼らとのやり取りができない状況になっていますので、わかりません。

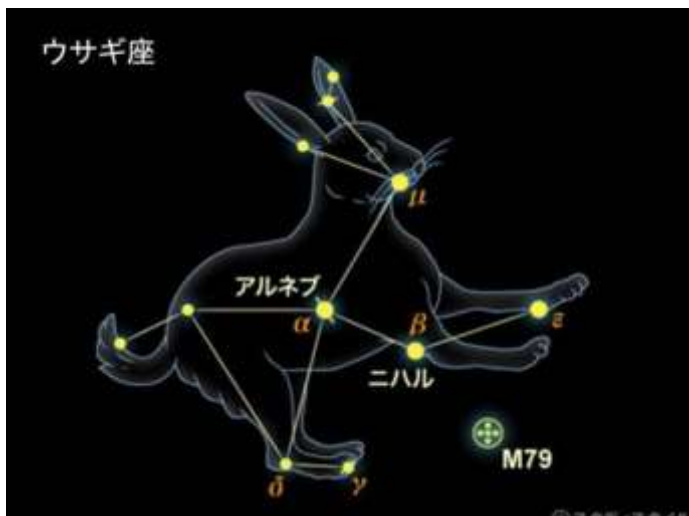
もしかしたら、このケンタウルスが詳しいことを知っているかもしれません。

ここは、いったん仲間にしておいて、後でゆっくり話を聴くことにしたらよいと思います。

私達も大変気になっている事ですので。」
さそり座の団長も同感のようです。

私は、このケンタウルスも私達の活動に同行させることにしました。

第4章 ウサギ座の闇とオリ オンの三ツ星



PART1 アルネブ星、その悲しみの姿

今回のツアーの目的は、アルネブ星の人々の救出です。

私達は其のために、カペラ星のイシス様とおうし座のアルデバラン星の騎士団を仲間にして、ウサギ座のアルネブ星にはいる事にしました。

しかし近くまで来ると、アルネブ星は大きな闇のエネルギーに満たされているようです。このままでは、私達も騎士団も星の中に入ることはできません。

私は、心の中で北極星の創造主をお願いして、トゥバン星のドラゴンやエニフ星のエルフ達のお力を借りるお願いをしました。もちろん北極星の創造主は快諾してくれました。

私はトゥバン星のドラゴンやエニフ星のエルフ達に心の中で救援をお願いしました。

やがて、彼らはすぐに隊列をなして助けに来てくれることでしょう。

しかし私はその前にやらなければならないことがあります。

私は、大天使ラジエル様を呼び出します。

アルネブ星の闇のエネルギーが周りの星々に広がらないように、光の箱でアルネブ星を包み込むお手伝いをしてもらいたいのです。私と大天使ラジエル様は、アルネブ星をおおいかくすような銀色の光のマカバを作りあげ、星をマカバの中にすっぽりとおさめます。そして、ペテルギウス星の創造主と北極星の創造主をお願いして、そのマカバの中に光を送ります。

宇宙の光のメンバー達も、大天使ラジエル様からもらったワンドを手に光を送っています。

しばらくしてトゥバン星のマスター・ドラゴンが到着したようです。

ドラゴン達が、光の箱の中に入り、アルネブ星の空を飛びまわりながら、たくさんの稲妻を光らせています。アルネブ星の闇のエネルギーがどんどん浄化され、星がすこしずつきれいになっていきます。

そこに鳥に乗ったエルフ達とペガサス騎士団も到着したようです。

ペガサス達や光の槍を持ったエルフ達は、アルネブ星に入って行き、ドラゴン達と協力して闇のエネルギーを浄化しています。

星のエネルギーがどんどんきれいになっていきます。

やがて大きな光がアルネブ星を包み始めます。

アルネブ星から、黒い闇がなくなった頃を見計らって、おうし座の騎士団、さそり座の騎士団たちが入り、星の地表を調べているようです。

もし凶悪な存在達がいたら、私達のメンバーに大変な被害が及んでしまうからです。

しばらくして、さそり座のアンタレスから、連絡が入りました。

「TAKESHI さん、地表の方は大丈夫なようですが、実は、、、」アンタレスが言葉を濁します。

何が起きているのかとても心配ですが、私達も全員アルネブ星に入ります。

するとそこには、とても衝撃的な光景が広がっていました。

遥さんや葵さんが、「キャー」と叫んで目を覆いながらうずくまってしまいました。

アルケイデースが、彼女たちを抱きかかえるようにして守っています。

私達が降り立った近くには、とても悲惨な状況の精霊のような女性が、傷ついた様子で立っています。

意識もなく、皮膚も裂け、体から血液の様な液体をだらだらと流しながら、立ったまま気を失っているのです。

この女性をまず救援することになりました。

私は、アスクレピオスに救援をお願いしました。

彼が来る間、皆で、フェアリーの女神からいただいた指輪とワンドを使用して、その女性に光を送ります。

アスクレピオス様が、すぐに到着し治療を始めてくれました。

彼女の傷は、肉体もそうですが、精神的なショックの方が大きいことを教えてくださいます。

私は、精霊の意識を私のハートの中に呼び入れ、彼女の魂を癒しました。

そして争いがあった時の様子を、彼女の魂を通して見ることにしました。

精霊たちは、闇が襲ってきた時に、純粋な心を持っている仲間の精霊たちが、次々と闇に飲み込まれ倒れていく光景を目にしました。

するとこの精霊の心に、闇を恐れ、闇を憎む心が芽生えたのです。

精霊は、怒りと復讐心で心がいっぱいになりました。

すると、その時に自分たちの心から光が失われ闇となり、心も体もその闇によって飲み込まれたことを、私達に見せてくれました。

そして、周りを見渡すと荒廃した大地の上に、彼女と同じような傷ついた精霊達が、たくさん倒れています。

私は、大天使ハニエルや癒しの大天使たちを呼び、急いで救援してもらおう事にしました。空から数えきれないほど多くの天使達が、この星に降り立ち、それぞれの精霊のもとに行き癒し始めました。

傷つき意識を失った精霊たちには光をあたえ、未だ助かる見込みがある精霊達は、ペガスやケンタウルス、エルフ達におねがいして急いでイシスの癒しの神殿へと運びます。

アルデバラン星の騎士団とさそり座の騎士団は、地上に残った闇のエネルギーの処理を行いながら、傷ついた精霊たちを必死で探しています。

動かすのが難しい精霊は、アスクレピオスとその看護婦たちが面倒を見ているようです。

そして、すでに命を失ったものは、天使たちがそのスピリットを抱いて空へと帰っていききました。

PART2 アルネブ星を襲った闇の正体、それは満たされない愛

私達はこの原因を調べるために先を急ぐことにしました。

周りを調べていた美緒さんとさそり座騎士団のアンタレスが、この星の地下に何かがあるという事を告げてきました。

私達から少し離れた場所に、地下に続くような暗い洞窟があります。

さそり座のアンタレスとアルケイデースにその通路を見てきてもらう事にしました。

それまでは、私達はこの星の傷ついている精霊たちに光を送ります。

2人が洞窟を調べて戻ってきました。

洞窟のところどころには傷ついた精霊たちが意識を失って倒れていたようです。

さそり座騎士団によって外に運び出され、天使たちの癒しの光りをうけています。

「TAKESHIさん、洞窟の中には傷ついた精霊たちもいたのですが、少し気になる存在もいましたので捕えてあります。

一緒に来ていただけますか。」

私達は、アンタレスとアルケイデースを先頭にして、女神アテナと共に中に入ります。

その洞窟の奥には、さそり座騎士団によって捕えられた存在がいました。

彼の周りからは、憎しみや怒り、そして絶望感がどんよりと漂っていて、暗く闇に覆われた存在です。

霊的な波動に敏感な葵さんと遥さんが、気分が悪くなって吐きそうな顔をしていますので、アルケイデースにお願いして洞窟の外に連れて行ってもらいます。

その闇にまみれた存在を光の箱で囲み、みんなで光を送りました。

大天使ミカエルにもお願いして、彼の闇のエネルギーをどんどん浄化してもらっていきます。

箱の中にどんどん闇が吸い出され、彼自身の体からは闇のエネルギーが浄化されていきます。

しばらくして、その存在は若い男性のような姿に変わりました、私のハートの中に、彼を入れ癒しました。

その人の魂を私の心にいれて癒すことも、創造主の力によって目覚めた能力の一つかもしれません。

すると、彼はアルネブ星が闇に覆われた原因を話し始めました。

彼はもともと、オリオン座のリゲル星に住んでいたようです。

リゲル星が、感情のクリスタルのマスターによって支配され始めたときに、自分達も危険を感じて、数名のグループでこのアルネブ星に移ってきたようです。

アルネブ星の住人は、ほとんどが女性の精霊達でとても優しい波動に満ち溢れていました。

精霊たちは、彼らを温かく迎え、食事の世話などもしてあげたようです。

若い男性グループは、このアルネブ星がとても気に入り、精霊たちに恋をしました。

しかし精霊達は、彼らがりゲル星から逃げ出してきたことを知って、それ以上彼らを受け入れることをしませんでした。

基本的にリゲル星の人々とアルネブ星の精霊たちでは、かなり波動が異なりますので受け入れることが困難だったのです。

リゲル星から来た若者達は、次第に傲慢になり、力づくでアルネブ星の精霊を従わせようとしていました。

彼らは、時として、暴力をふるい、精霊たちを傷つけて困らせていました。

彼らは満たされない愛情を埋めるために、アルネブ星の精霊との間に大きな摩擦を生みだしてしまっただけです。

やがて、彼等の愛情は間違えた方向に走ってしまい、彼らの中に闇が生まれてしまったのです。

その闇は、アルネブ星の精霊たちに襲いかかり、精霊たちを支配し自分のものにしようとしていました。

純真な心を持ったアルネブ星の精霊も、さすがにその闇を恐れ戦いました。

そして多くの精霊たちが傷つき犠牲になったようです。

アルネブ星の精霊は、彼らと闇を憎み、復讐心にその心を支配され、精霊の中にも闇が生まれました。

その闇は、アルネブ星の惑星意識にも大きな影響を与えてしまったようです。

リゲル星から来た若者は、自分達がしたことを悔やみアルネブの精霊に謝罪し償いをしたいと言いました。

しかし、彼らが行ったことは取り返しがつかない事でした。

PART3 アルネブのマスターの救出

私達は、彼を残し先に急ぎます。

私達が話をしている間に、女神アテナが、洞窟の奥に小さな神殿がある事を発見したからです。

その神殿には、アルネブ星のマスターと思われる精霊がいるようです。

私達は、一刻も早くアルネブ星のマスターを助ける必要がありますので、通路を先に進み少し広いところに出ます。

そこは小さな神殿です。

きっとこの星の大地のエネルギーとひとつになるための神殿のようです。

そこに一人の精霊が、自らを固い殻で覆い、誰からも手出しができないような状態で存在しています。

しかし自分自身でも、その殻の中から出ていく事ができないようです。

私達は、女神アテネにどうしたらよいか尋ねました。

女神アテネはこの固い殻を調べながら言います。

「この固い殻を無理やり壊すと、中の精霊が傷ついてしまうので危険ですね。

皆さんが創造主から受け取った光を使って、固い殻に光を送って殻を溶かしてあげるしか方法はないようです。」

ちょうどその時、精霊のリーダーを発見したという報告を受けて葵さんと遥さんも戻ってきました。

「それでは、この固い殻に創造主の光をおくって、中の精霊を助けますから、殻の周りを取り囲んでください。」

私達は、祈りと共に、精霊の心に向かって光を送ります。

しばらく、私達は光を送り続けました。

すると精霊を取り囲んでいた硬い殻が光り始め壊れていきました。

するとその中から、弱り切ったアルネブ星の女神が現れました。

葵さんは、女神が目覚めるとすぐに女神の横に駆け寄りました。

そして女神の手を握り、元気になるように祈っています。

女神は、葵さんの手の温かさを感じたのか、ゆっくりと目を開けます。

そして横にいる葵さんを見て、微笑みました。

「あなた方が、私のメッセージをうけとり、私達を助けてくれたのですね。

本当にありがとうございます。

私はこの星を守るために、自分の身を隠すことしかできませんでした。

もしこのまま、私を誰も助けてくれなければ、この星と共に朽ち果てていこうと思っておりました。

でも皆さんのおかげで、私達もそしてこの惑星も助かるようです。」

女神たちはずっと助けが来ることを待ち続けたいたようです。

私達にずっと救いを求め、メッセージを送っていたのは彼女だったようです。

その女神の周りにも岩などに姿を変えた精霊たちがたくさんいるようです。

先ほどの女神が、みんなに合図を送ります。私達も精霊達へ光を送ると、岩が壊れてその中から数名の精霊達が現れてきます。

皆さん、自分達が救われたことを、とても喜んでいきます。

この時、大天使から「早くこの星の中心に入り、惑星の光を蘇生させてほしい。

そうすることでこの星に光が満ち、女神たちはもちろん、傷ついている精霊たちも早く元気になる。」という指示が来ました。

私達は、前回アルタイル星で行ったように、アスクレピオス様とその特殊部隊にお願いして、この惑星の心臓部に根を張る闇を取り除いてもらう事にしました。

そして、私達は、大天使ラジエル様にお願いして、この惑星の中心に降りていく階段を開いてもらい、惑星のマザークリスタルへと向かいます。

私達は、大天使ラジエル様から、星には星のエネルギーの源となる大きなマザークリスタルがある事を教えられていました。

その星が健康であれば、マザークリスタルも汚れがなく美しく輝いているのですが、星に問題がおきたりするとマザークリスタルは輝きを失い濁ってしまいます。

もし星が闇に蔽われたら、クリスタルは完全に輝きを失い、ひびが入ったり割れてしまいます。

すると、星の生命エネルギーも失われて、星は次元降下を起こして、光りの世界から闇の世界へと消えてしまうのです。

良く創造主たちが、闇に落ちた星には、自分達が入れないというのはこの事なのです。

私達は、洞窟のさらに奥に作ってもらった魔法の階段を下りていくと広い空間に出ました。

そこにはマザークリスタルと思われる大きなクリスタルがありますが、傷ついていて輝きが失われ、全く元気がありません。

遥さん、葵さん、美緒さんの3人が、以前女神からいただいた「光の種」をクリスタルに埋め込みました。

「光の種」はクリスタルの中に入ると少しずつ輝き始めました。

大天使ラジエル様もやってきてくれました。クリスタルに神聖幾何学を描き、クリスタルの傷をワンドから出る光で修復しています。3人の女性達も、大天使ラジエル様のまねをして、ワンドに光を見だし、クリスタルが割れているところやひびが入っているところを、ワンドで丁寧になでて修復しています。クリスタルに光が満ち、元気になっていきます。

私達は、このアルネブ星に集まっている天使やマスター、騎士団、光の存在達に心の中で呼びかけます。

「皆さん、今私達はアルネブ星の傷ついたマザークリスタルの前にいます。

アルネブ星の女神達も無事救出されました。これから、アルネブ星のマザークリスタルに光を送りますが破損が激しく、私達だけの力では難しいようです。

皆さんお気持ちを、マザークリスタルに集めて一つにしてください。

どうか、この星のために祈りをささげてください。」

アルネブ星のマザークリスタルに、多くの者達の意識が光となって集まってきます。

クリスタルの中に、様々な方向から美しい光が飛び込んできます。

マザークリスタルは一段と大きく輝き、この惑星全体に光を送り始めます。

すると今まで傷つき気を失っていた精霊たちに意識が戻ります。

精霊たちの傷も光で癒され始めました。

私は、アルネブ星に、星の光をつなぎ次元上昇させるために、ペテルギウスのダイヤモンドを形作る星々に、アルネブ星に光を送るように呼びかけます。

ペテルギウス星はもちろん大犬座のシリウス星、小犬座のプロキオン、ふたご座のボルクス、カストル、おうし座のアルデバランの星々が輝き始め、光を送り始めます。

アルネブ星のクリスタルが、これらの星の光を受けて大きく振動します。

そして、闇の世界から再び光の世界へと次元上昇を行います。

次元降下した星は、単独では光の世界に戻る事が出来ません。

多くの星々の光をうけて、初めて光りの世界に戻って来れるのです。

多くの星々がアルネブ星に、お帰り！よかったね！と声をかけている様子です。

これで、アルネブ星も一安心。

まだ星の再建が残っていますが、今日はこれまでとして、私達は地球に帰ります。

PART 4 ウサギ座の二ハル星 闇に傷ついた星

また1週間がたち星のツアーの日がやってきました。

今回は、アルネブ星の闇に落ちた精霊達の姿があまりにもショッキングでしたので、たとえ光に帰れたとしても、今日も少しその気分を引きずっています。

今回の星のツアーは、リゲル星に入る予定でしたが、ウサギ座のほかの星が、同じような状況になっていないか、大変気になっています。

アルネブ星は、リゲル星から来た存在によって、満たされない愛の感情から闇に落ちることになりました。

しかしウサギ座の悲劇は、アルネブ星にとどまらないようです。

女神アテナに確認したところ、二ハル星も闇の支配を受けているという事でしたので、アルネブと同じような惨状が広がっている可能性もあります。

今回は、皆さんと話し合って二ハル星に入ることにしました。

私達はシェンロンに乗って、ペテルギウス星に入り、今からウサギ座の二ハル星にはいる事を創造主に伝えます。

創造主も、アルネブ星の惨状をお聞きになって大変心を痛めていらした様子です。

私達が二ハル星の救済に行くことを聴いて喜んでいきます。

二ハル星に到着すると、やはりアルネブ星と同じように星自体が闇に閉ざされていました。

今回も、北極星の創造主をお願いして、仲間たちに星の浄化を手伝ってもらいます。

まず二ハル星をマカバ型の光の箱でつつみ、星に光を与えます。

すると星の内部から、黒い煙のようなものがどンドン放出されていきますので、全員で光の箱に向かって光を送ります。

トゥバン星のマスター・ドラゴン達は、先に星に入り、星の浄化を行います。

二ハル星の空を飛びまわりながら、たくさんの稲妻を光らせています。

アルネブ星の闇のエネルギーがどンドン浄化されて行きます。

エルフ達とペガサス騎士団も同じように空や大地に残ったネガティブなエネルギーを浄化しています。

やがて二ハル星も、闇が晴れ美しくなっていきます。

しばらくして、星の闇がだいぶ薄れたところを見計らって、騎士団達が星へと降り立ちました。

星全体が、とても暗く重たい雰囲気です。

しかしアルネブ星と違って、闇とはげしく戦った様子はあまりないようですが、エルフやペガサス騎士団は、傷ついている精霊達を見つけて、ぎよしゃ座のカペラ星へと運んでいるようすです。

私達も安全を確認してから、星へと入りました。

しかしこの星は森におおわれているようですので、私達はシェンロンにのって空から探索してみることにしました。

暗くどんよりとした空からは今にも雨が降ってきてそうな天候ですので、急がないといけません。

ドラゴンの操縦が上手な美緒さんが、見慣れ

ない存在が岩陰にいるようなビジョンを伝えてきましたので、全員で探します。

アルデバラン星の騎士団やさそり座騎士団にも探してもらいました。

私達は、シェンロンを降りて、騎士団と共に歩きながら周りの様子を調べています。

それらしい場所が見つかりましたが、マスター達の存在が見つかりませんし、入り口もありません。

そこで大天使ラジエル様に隠された扉を見つけてくれるようお願いしました。

大天使ラジエル様が、たくさんの金粉を山々に振りまいています。

すると 1 か所だけ、金粉が扉にくっついていてのか、金色の扉が見つかりました。

美緒さんが急いでその扉の所まで走っていききました。

すると、その扉の所に小人の姿をした存在がいます。

小人はすぐに隠れようとしたのですが、美緒さんにつかまってしまいました

小人のマスターをみて私の周りからも、仲間のホビット達が数人現れてきました。

小人のマスターは、突然現れたホビットを見て驚いていましたが、ホビット達から、私達がこの星を救済に来たんだよ、という話を聴いて安心したようです。

「私は地球から来た TAKESHI ですが、ペテルギウス星の仲間達もたくさんいます。先日は、アルネブ星にも行って精霊達や女神達も救出してきました。」

私の言葉に、小人のマスターは驚いたようで、目をくるくる回しています。

そして、私の周りにはいるホビット達に「本当？」と聞いています。

ホビット達は口をそろえて「本当！」と答えています。

小人のマスターは私達を信頼してくれたようです。

「私は、この森を守っているマスターで、ニックという名前です。

この星が突然闇に襲われてしまったので、この森にいる精霊や動物たちもいなくなってしまうました。

星の女神達も、自分自身が闇に飲み込まれることを恐れ、この星のクリスタルの中に隠れてしまいました。

この森は今、闇の中で静かに時を過ごしていますが、少しずつ力を失い衰えてきています。」

「わかりました、ここに来るまでも、傷ついた精霊や動物たちを見かけました。

この星を再生させるためには、クリスタルの中に隠れている女神達を助け出さなければなりませんね。

マスターよ、私達をそこに案内してもらえませんか。」と私はお願いしました。

小人のマスターは、どうしようかなと考えているようです。

そして、私の周りにはいるホビット達に「この人のいう事、本当？」とまた聞いています。ホビット達は口をそろえて「本当！」と大きな声で答えています。

小人のマスターはその声の大きさに驚いて、後ろにひっくりかえってしまいました。

小人のマスターは、私達を信頼したようです。特別な鍵を使って金色の扉を開くと、扉の奥には地下へと続く階段がありました。

その階段を下りていくと、少し広い場所に出

ましたが、周りは石の壁で囲まれています。

私達は、小人のマスターと共に、曲がりくねった道や分かれ道をさらに進んでいきます。小人のマスターにとっては、アルケイデースやアルデバラン星の騎士団はとても体が大きいので気になるようです。

しばらくすると、アルケイデースの腕に抱かれて、あっち行って、こっち行って、と指示を出しています。

アルケイデースと仲良くなって、彼に抱っこされているのがうれしいようです。

確かに、小人のマスターが一人で歩くよりは早いかもしれませんね。

やがて、道が2つに分かれていました。

一つは、二ハル星の別次元に続く道でもう一つは二ハル星の内部に続く道です。

私達は、二ハル星の内部へと向かって進みました。

PART5 二ハル星の守護天使と女神達

するとそこには、大きな岩のように見えるクリスタルがあります。

これがおそらく、二ハル星のマザークリスタルでしょうが、つたが絡み輝きを失っているようです。

クリスタルに輝きがないという事は、この星の生命も失われてきているという事です。このままクリスタルがひび割れて崩壊してしまったら、二ハル星も崩壊してしまいます。

私達は、このクリスタルをどうしたら元のクリスタルのようにできるか相談しています。私達が相談している間に、アルケイデースや

アルデバラン星の騎士団が、周りのつたを剣で振り払い、クリスタルを綺遥にしています。美緒さんが「光の種を入れてみようよ。」と言います

葵さんは「まず光の箱に入れて、みんなでお祈りしたほうがいいわ。」と言います。

遥さんは「大天使ラジエル様をお願いして神聖幾何学を描いてもらった方がいいわ。」と言います。

私は「そのすべてをやってみたらいいよ。」
というとニック達も笑い出します。

美緒さんがまず光の種をクリスタルに入れると、周りを綺遥にされたクリスタルは嬉しそうに、輝き始めます。

葵さんは、魔法のワンドを振りながら、クリスタルの周りに光りの箱を作り、祈り始めました。

遥さんは、大天使ラジエル様を呼び、クリスタルの活性化をお願いしています。

大天使ラジエル様は、いくつもの神聖幾何学を描き、クリスタルの封印をといているようです。

私達は、騎士団も一緒になって、全員でクリスタルの周りを取り囲み、祈り始めました。私達の額につけられた創造主の印から光がクリスタルに向けて放たれます。

するとクリスタルが中から輝き始めます。その時、小人のニックが、とても大きな美しい天使に変わりました。

ニックもこのクリスタルの輝きが強くなると同時に、光り輝いていきます。

私達はニックの突然の変化に驚いていますが、大天使ラジエル様はニックを見てほほ笑んでいるようですので、私達も安心して成り

行きを見守ります。

ニックが光輝く剣を出して、剣に祈りを込めています。

そしてその剣を、高く掲げたかと思うと、剣の光がクリスタルを貫きます。

クリスタルは、オレンジ色に輝き、光の扉がそこに生まれました。

ニックが、クリスタルの横に立ち光の扉を開くと、クリスタルの中から、数名の女神達が現れてきます。

突然の出来事に、葵さん達も目を丸くして見入っています。

天使となったニックが私達に感謝の言葉を述べます。

「地球からいらした皆さん、そして星々の勇敢な騎士団、今回は、二ハル星のクリスタルに光を満たしていただきありがとうございました。

大天使ラジエル様より、皆さんがいらっしゃることをお聞きして、私も心よりお待ちしております。

この二ハル星が再び輝き、女神達が自由になる事を、私は心から願っておりました。

そして、皆さんたちの真剣な祈りによって、私達の願いはかなえられました。」

遥さんが、天使となったニックに近づいて尋ねます。

「あなたの本当の姿は大天使様だったのですね、それをわざと小人のようなお姿をされていたのですか。」

「いえ、だますつもりではなかったのです。私は、この星の女神達の守護をしている天使ですが、最初から天使の姿で現れてしまえば、皆さんが、真剣に祈ってくださるかどうか、

試す事が出来なかった物ですから、、、。」
大天使ニックは遙さんの視線に動揺しています。

その時、扉から出てきたばかりの女神が、私達の前に立って感謝の言葉を述べます。

「皆さん、私達を助けていただいて大変ありがとうございました。

私達の守護天使ニック、皆さんをここに連れてきてくださって本当にありがとうございました。

私達は、闇のエネルギーから、自分達とこの星を守るために、自らマザークリスタルの中に入り封印していました。

私達はやがて、神聖なるマスター達が、闇のエネルギーを払いのけ、ここにきてマザークリスタルを復活させてくれることを心から祈っておりました。

その為に守護天使ニックをお願いして、闇の世界の中でも私達を見守り続けてもらったのです。

そして、ついに私達の祈りがかなえられる日が来ました。

私達は、偉大なるマスター達の力で、光の世界へと再び導かれることでしょう。」

女神は感動のあまり、泣き出してしまいました。

他の女神が、続けて話します。

「私達は、皆さんが、私達を助けてくれたことに感謝いたします。

しかし、多くの星の者達が、傷つき倒れたままではないでしょうか、どうかこのクリスタルの光を広げて、星の人々を助けてください。守護天使ニック様も、どうか一緒に私達の仲間を助けてください。」

守護天使ニックは、泣き伏した女神の腕をとり言います。

「彼らによってアルネブ星の精霊と女神達も助け出されたそうです。

きっとうまくいきますよ。」

他の女神達はその言葉を聴いて、嬉しそうにしています。

アルネブ星と二ハル星は、姉妹の様な星ですから女神同士も仲が良いようです。

アルネブ星の女神と精霊たちが助け出されたことを聞いて、彼女達にも大きな希望が満ちてきました。

「偉大なる女神達よ、もうすでに、この星の闇は取り除かれました。この星の精霊たちも、カペラ座のイシスのもとに運ばれ手厚い介護を受けていますのでご安心ください。

とはいえ、この星の生命達をさらに活気づかせ、この星を光りの世界に戻さなければなりませんね。」

私達はこのクリスタルを取り囲み、ワンドを使ってクリスタルに光を送ります。

クリスタルの輝きは強くなり、その光は部屋1面に満ちてきました。

そして、私達は多くの仲間達に呼びかけ、このクリスタルの光が星全体に広がり、二ハル星の全ての生命達を満たすように祈り続けました。

二ハル星がどんどん輝きをまし、惑星としてのエネルギーが高まっていきます。

私は、ペテルギウス星の創造主をお願いして、この二ハル星も闇の世界から、光の世界へ次元上昇するように、各星々の光をつなげてもらいました。

PART6 純真がゆえに闇に支配された星

二ハル星の女神達は、自分達の星が闇の世界から光の世界へ次元上昇していく様子を喜びながらみえています。

女神達は、地下から出て二ハル星の地上に戻ってきました。

森は光で輝き、鳥たちのさえずる声も聞こえています。

星が愛と喜びに満ち溢れています、

女神達は、私達を小高い丘の上にある神殿へ案内してくれました。

私達は、美しい石組みが残る神殿に座って女神達の話をお聴くことにしました。

一人の女神が豎琴を奏で、優しい音色が私達をつつみます。

この神殿から見渡すと周りは美しい森です。しばらく前まで、この星が闇に包まれていたとは思えない程静かで美しい光景が広がっています。

二ハル星の女神達が、私達に二ハル星で起こったことを教えてくれました。

「私達は、アルネブ星にリゲル星人がやってきて、アルネブ星の姉妹たちを傷つけていることを知って、とても恐れていました。

いつかは、私達の星にもアルネブ星と同じように、リゲル星の人達がやってくるのではないかと思ったのです。

そして、私達の恐れは的中しました。

彼らは、空から宇宙船で私達の星に降り立ったのです。

二ハル星の人たちは、とても純真で疑う事を知らない人達ばかりでしたので、リゲル星の人達を受け入れ、もてなしていました。

すると、リゲル星の人達は、自分がこの星を簡単に支配できると思ったのか、態度が大変

横暴になり、自分の欲望のままにふるまうようになりました。

その様な状態を見て、私達は二ハル星の人達に警告をしましたが、あまりにも純真すぎて逆らうことができない二ハル星の人たちは、彼らの思うままに操られていきました。

そして、傲慢になったリゲル星の人達の心に闇のエネルギーが入り込んでいったのです。リゲル星の人達は、気が狂ったように乱暴になり、二ハル星の人々を傷つけ始めました。私達は、このような状態を止めたいと思いましたが、それもできません。

そのような時、オリオン座の三ツ星から「3賢者」と呼ばれる方達が、二ハル星に降り立ち、私達を救うために努力してくれました。彼らは非常に聡明で理性的でした。

リゲル星の人達と話しをして、自分達の行いを改め、リゲル星に帰るように進言したのです。

しかし、リゲル星の人は、リゲル星に戻るろうとしませんでした。

そして彼らの間に争いがおこったのです。私達の守護天使ニックも、3賢者と共に私達を助けるために戦い続けました。

私達は、リゲル星の人達の乱暴や横暴な支配から逃れて、森の中に入り洞窟の中などに隠れ住みました。

しかし、闇の力をどんどん増して巨大になっていくリゲル星の人達に、仲間たちは次々とつかまって傷つけられていきました。

そして3賢者たちも捉えられてしまったのです。

そして、私達もなすすべがなく、多くのものは他の次元や他の星に逃げましたが、私達はこのマザークリスタルを守るために、この二

ハル星の地下にとどまり、長い時間をクリスタルと共に過ごしました。

私達を助けに来た3賢者の人達は、自分達の無力感と二ハル星の人たちに対する罪悪感で、彼ら自身もまた闇にとらわれてしまいました。

それからどれほどの時間がたったのでしょうか、やっとあなた方が、この二ハル星にやってきてくれたのです。」

と二ハル星の女神は、涙ながらに、私達に話してくれました。

PART7 闇に閉ざされたリゲル星の宇宙船

二ハル星の女神の話聞いて、私はこの星の事を考えていました。

すると後ろから静かに守護天使ニックが近づいてきました。

「TAKESHIさん、私はあなたに心からお願いがあります。」

守護天使ニックは、私の瞳を真剣な目で見つめています。

「どうしたのですか、私にできる事なら何でも言ってください。」

「実は、この星にはまだ大きな闇が2つ残っています。

それを片付けてほしいのです。

ひとつは、この星に来たリゲル星の人々と彼等が乗ってきた宇宙船です」

「え！リゲルの星の人がまだ残っているのですか。」

私は驚いて尋ねました。

「いえ彼等は、光のマスターによって宇宙船の中に閉じ込められていますので、宇宙船から出ることはできませんし、生死も定かではないような状態です。

しかし、もう一つの闇をつくっているのは、三ツ星の3賢者ですので、ぜひ救い出してほしいのです。」

「三ツ星の3賢者というと、、」

「そうです。有名なオリオン星座の三ツ星のマスターの事です。」

「わかりました、それはとても大切な仕事のようにですね。

すぐに出かけることにしましょう。」

私達は、守護天使ニックと共に出かけることにしました。

もちろん女神アテネ、アルケイデースやさそり座の騎士団、アルデバラン星の騎士団も一緒です。

空からはペガサス騎士団も、私達の周りを警護しながらついてきてくれます。

私達はシェンロンにのって、守護天使ニックと共に、いくつもの森を抜けていきます。

すると、険しい山のふもとに、岩のように大きくて真っ黒な物体を見つけました。

おそらくリゲル星から来た人達が使っていた宇宙船ではないでしょうか。

彼等は、あまりにも暴挙を行いすぎたために、光のマスターによって、ここに閉じ込められたようです。

この中には、リゲル星から来た人達が 今でも閉じ込められているのでしょう。

私達は、その岩のようなものを取り囲み、光を送りました。

光を送られると黒い闇の塊のようなものが壊れ始め、中から宇宙船が現れました。

とても暗く重たい波動に満ちています。

その時ふたご座のカストル星のマスターであるトート神が現れました。

「TAKESHI さん、そして皆さん、二ハル星の人達を助け出してくれてありがとう。

この宇宙船は紛れもなく、リゲル星から来た人達の宇宙船です。

一つの星の人々を苦しめ、闇の世界に落とした罪は、あまりにも大きいものです。

私は、この者達を宇宙船ごと封印して、これ以上の暴挙を働かないように封印しました。ほっておくと、彼らはウサギ座の他の星々へと移り、更なる暴挙を働く恐れがあったからです。

しかし、時が来て、この者達が必要な時期がやってきました。

TAKESHI さん、申し訳ありませんが、この宇宙船は私が預かります、よろしいでしょうか。」

私に「よろしいでしょうか」と言われても、このような状況で「ダメ！」と言えるはずもありません。

「どうぞご自由に！」と答えました。

トート神は、その船を大空高く持ち上げて運んでいきました。

PART8 3 賢者の闇の渦巻き、光と闇の統合

それから、私達は、シェンロンにのってもう一つの闇を探しました。

私達の目の前に現れてきたのは、初めて見る巨大な闇の渦巻きです。

あるいは、映画などで見る竜巻のような姿をしています。

大天使ラジエル様が現れて、私達に闇の渦巻きについて教えてください。

「大きな渦巻きによって、皆さんが住む物理的な世界は、他の世界と繋がります。

もしその渦巻きが、闇の渦巻きであるなら、皆さんの世界は闇の世界とつながります。

闇の渦巻きが、闇の世界への通路となっているのです。

闇の渦巻きがあるところには、闇に関係した事が起こっているはずですよ。

そこにある問題を解決する事によって、闇の世界と皆さんの世界は分かたれます。

その問題を解決するのは、まさに TAKESHI さんの役目ですよ。」

大天使ラジエル様に、それが私の役目だと言われても、私達は内心とても怖い思いでいっぱいですよ。

闇の渦巻きに飲み込まれたらどうしようと思いがすくみます。

しかし、その渦巻きの正体を解決しないと、いけないようです。

渦巻きの中にそのまま近寄ると大変危険なので、大天使ラジエル様にお願いして、渦巻きの動きをしばらく止めてもらいます。

渦巻きに近づくと、渦巻きの根元は地下に続いているようでしたので、魔法の階段を作り、地下深く入って行きました。

すると驚いたことに、木の根っこに捕えられて動く事ができない3人の人達がありました。かろうじて生きているのか、呼吸は聞こえますが、ぐったりとして全く動けない状態ですよ。アルケイデースやアルデバラン星の騎士団たちが、剣を振りかざし、木の根っこを切り

払い3人を助けようとしませんが、木の根っことは固く絡まっています。

私達は、すぐに医者のアスクレピオス様を呼ぶと同時に、その木の根にどんどん光を当てていきます。

やがて、勇者たちの剣さばきと私達の光によって、木の根っことは切り崩され、3人は助け出されました。

アルケイデース達が、木の根元から引っ張り出すようにして救い出し、私達の元へと連れてきてくれました。

この3名が、ニハル星を助けに来てくれた3賢者であることに間違いのないようです。

すぐにアスクレピオス様の治療院に、ペガサスとケンタウルス達が搬送しました。

しばらく彼の治療院で治療する必要がありそうです。

3賢者が去ると、その上にぽっかりと大きな闇の渦巻きが見えます。

私達は、渦巻きの下から、ワンドを使って渦巻きとは反対方向に光を送ります。

天使達を始め多くのマスター達もサポートに来てくれます。

大天使ラジエル様が私の近くに来て言います

「あなたは、創造主から特別な力を授かっています。

それは、あなたの中にある光の粒子で闇の渦巻きをつくっている闇の粒子を光に統合することです。

あなたは人間であり天使ですから、その遺伝子の中に光の粒子があるのです。

それを闇の渦巻きの中で放出すると、闇の渦巻きは光となって消えていきますよ。

試して御覧なさい。」

私は、自信なさそうな顔をして困っています。それを見た大天使ラジエル様が、彼のワンドを振ると、私の体は、すっと持ち上げられ闇の渦巻きの中に入ってきます。

葵さんや遥さん達が「TAKESHI さん！大丈夫！」と言いながら大騒ぎをしています。隣では、美緒さんが「ちゃんとかえって来いよ！」とのんきなことを言うので、葵さんから肘でつつかれたようです。

私の体は、闇の渦巻きの中にすーと入り、人間と天使の光の遺伝子をその中に放出します。

光の遺伝子から放出された光の粒子は、闇の粒子たちと出会うと、火花が飛び散るように、光を発してはじけあいます。

そして闇の粒子はバチバチと音を立てて光に変わっていき、少しずつ消えていきます。しばらくすると、闇の渦巻きは、黒い色が次第に薄くなり、やがて二ハル星の地上から遠のいていきました。

闇の渦巻きがあった場所には、静かなエネルギーが戻ってきたようです。

私の体も、ゆっくりと地上に戻ってきましたが、十字架に貼り付けにされたような気分です。

私達は、闇の渦巻きと対面するのが今回は初めてでした。

ただ、闇の渦巻きといっても、3賢者の中に生まれた闇の渦巻きなのでさほど大きくはありません。

今回このことを通して、大天使達と闇を光に統合する方法を話し合いました。

もともと、闇も宇宙の創造主が創られたものです。

しかし欲望に満ちた人間の感情と遺伝子が闇の中に取り込まれ、自己増殖することで大きくなってきました。

そして闇の力は、人間だけでなく天使たちの心と遺伝子も取り込んでいったのです。

それは天使の中にも、人間と同じように欲望を持ち、人々を支配したいと願った天使がいたからできた事です。

闇は、異なる世界に行き来できる人間の遺伝子と叡智とパワーに満ちた天使の遺伝子その中に飲み込んでいきました。

天使やマスター達にはこの闇の力に対する対策がまだ十分ではありません。

ただ、この闇を処理する為には、天使と人間の2つの遺伝子を持つ者によって闇と光を統合する必要がある事だけはわかってきました。

そして今回行ったことは、その最初の実験でした。

闇の渦巻きの中で、光の粒子を放ち、闇の粒子と一つにする事で、闇を光に統合し、闇の渦巻きを消し去る事ができました。

とりあえずこの方法は、理論的には有効な様ですが、果たしてさらに巨大な規模の闇の渦巻きには有効なのか、

闇の渦巻きの中に簡単に入れてもらえるのか、さらに課題は残ります。

しかし、大天使ラジエル様と創造主のお力により、闇と光を統合する方法は確立できたようです。

第5章 リゲル星に向かう光 のマスターと女神



PART1 リゲル星を救済するための作戦

私達がリゲル星に入る日がついにやってきました。

このリゲル星は、今まで入った星とまったく違います。

それは今までの星は、闇の支配によって荒廃した星ばかりで、闇の力を持った存在はもうすでに星にはいなくなっていました。

しかしこのリゲル星は、まだ闇の力を持った存在による支配が行われており、非常にネガティブなエネルギーを発し続けています。

私達も、この星に降り立って闇の存在に支配されている女神を助け出すことが出来るのか、もしかしたら自分達も、闇に捕らわれてしまうのではないかと心配でたまりません。

リゲル星は、地球と同じように物理的な世界を持っているようです。

地上には、叡智ある人はもちろん動物や植物をはじめ様々な種族が存在しているようです。

中には、私達を襲ってくるような凶暴な動物や種族がいるかもしれません。

考えれば考えるほど心配が募り暗い気持ちになってきます。

その様な私を見て、美緒さん達が励ましてくれます。

「TAKESHIさん、ここまで来たのだから張り切っていきましょう。

本当に弱虫なんだから。」

これは励ますというよりも、けなされているのかもしれない。

私達は美緒さんや葵さんを先頭に、シェンロンに乗ってペテルギウス星の創造主のもとに出かけていきます。

今日はリゲル星に入るために、事前に作戦会議を行う予定になっていましたので、創造主をはじめ、女神アテネと各星々のマスターや女神、さそり座やアルデバラン星の騎士団たちもそろっています。

今日は美緒さんが話をリードしていきます。

「今日はTAKESHIさんに代わって、私がお話をさせていただきます。

これからリゲル星に入る予定になっておりますが、わがチームの代表は、不安でいっぱいなので、まずリゲル星の状況を教えてくださいませんか。」

美緒さんの元気な声に、皆さんにこやかに笑っています。

最初は女神アテナよりリゲル星に関する報告がありました。

「私達はまずリゲル星に先立ち、ウサギ座のアルネブ星と二ハル星の救出を行いました。

どちらの星も共にリゲル星から来た人達によって、星の精霊たちは傷つけられ闇に飲み込まれていました。

かろうじて2つの星の女神達はクリスタルの中に隠れており、それを発見したTAKESHIさん達のグループにより助け出されました。

このことによって、アルネブ星とニハル星は、闇の世界から光の世界へと復活しました。

この2つの星の復活によって、私達はリゲル星へと入って行く大切な拠点を確保したといえるでしょう。

しかしリゲル星は、アルネブ星とは比べ物にならないほどの、大きな闇のエネルギーに包まれています。

リゲル星を守護していた女神をはじめ多くのマスター達が行方不明となっております。リゲル星の中心をなす「天空の塔」も輝きを失せ、天空の女神とも連絡が取れません。そして、地上から空に巻き上がる巨大な闇の渦巻きも発見されております。

リゲル星には、いくつもの大切なクリスタルが存在していますが、その多くが力を失い傷ついていますので、星のエネルギーも大変不安定です。

しかも、地上には闇に支配された種族達がたくさんいるようですので、おいそれと地上に降り立ち、クリスタルを探し回るのも危険かと思います。」

女神アテネの説明に多くのマスター達が顔を曇らせます。

負けん気が強い美緒さんが、女神アテナに言いました。

「女神アテナ様、そんなに驚かさないで下さいよ、

私達のリーダーは気が弱いんですから。
それで、解決法はあるんでしょう。」

女神アテナがしばらく沈黙しています。
美緒さんだけでなく葵さんや遥さん達もドキドキしています。

「そうですね、私達の頼みは、TAKESHIさん達のグループですので、彼等が何とかしてくれるでしょう。」

女神アテナのすました言葉に、美緒さん達が「え～」と叫んでいます。

女神はにっこりと笑って、さらに続けます。

「しかし、解決法はあります。
アルネブ星の闇も二ハル星の闇も、
TAKESHIさん達が準備した「魔法の光の箱」とトゥバン星のドラゴンやエニフ星のエルフ達、ペガサス騎士団によって、その闇をはらうことが出来ました。

しかし、リゲル星はこの2つの星よりもはるかに大きいので、さらに大きな戦力と魔法の力が必要です。

そして傷ついた人々を癒すための場所が必要です。

幸い、前回北極星の創造主と共に、わし座のアルタイル星を救い出した勇者たちは皆さん協力してくれる事になっております。」

女神アテナのこの言葉を聴いて、多くのマスター達が手をたたいて喜んでいます。

「さらに私達には、勇敢なアルデバラン星の騎士団たちとわがアテナの親衛達がおりますし、小犬座のマスター達、カストル星の魔法使いトート神、ケンタウルスのグループも協力していただけますので、アルタイル星を救出したときよりもはるかにパワフルなメンバーでリゲル星へと入ることが出来ると思います。」

またカペラ座のイシス様も救急隊をリゲル星へ派遣する準備が出来ているようです。」

女神アテネの力強い言葉に、創造主をはじめ多くのマスター達も満足そうです。

美緒さん達も安心しているようです。

「さすが女神アテナよね、脅かさずに最初からそう言ってくれなくちゃ。」とっています。

しかし、私達が直接入ることは危険という事で、いくつもの段階を踏まえてこの星に入ることになりました。

そして数名の創造主やマスター達からも、私達の身を守るための大切なアイテムをいただきました。

- 1、闇の視線から私達の身を隠すマント
- 2、闇と光を統合するための剣
- 3、星に光を送るためのワンド
- 4、闇のエネルギーを閉じ込め光を送る虹色の雲
- 5、傷ついた人たちを助けるための救急薬

私達はいつも私達と同行して、大切なアイテムを作ったり保管してくれているホビット達に、これらのアイテムを渡して、メンバー全員が使用できるように複製を作ってもらい、メンバー達に装備させました。

PART2 リゲル星に向かう騎士団と光の存在達

私達は、ペテルギウス星の創造主のもとに集まり、メンバー達と作戦の確認を行った後に、

創造主から光のエネルギーをいただき作戦開始です。

私達は、リゲル星のすぐ近くにあるウサギ座のアルネブ星に拠点を移し、ここからリゲル星へと入ってきます。

最初に行った事は、創造主からいただいた虹の雲を使用した新しい光の箱で、リゲル星を取り囲みます。

ホビット達と魔法使いのグループでその箱（マカバ）を大きくして、リゲル星を取り囲み、全員で光を送りました。

今回は、大天使ラジエル様やメタトロン様も協力してくれることになり、リゲル星を囲んだ光のマカバの上に神聖幾何学を描き、光のマカバの力をさらに高めていきます。

私達も「星に光を送るためのワンド」を利用して、リゲル星にどんどん光を送っています。そうすることで、リゲル星を覆っていた闇のエネルギーが吸収され、リゲル星が明るく輝きはじめます。

次に、闇のエネルギーを除去する事ができるトゥバン星のドラゴン達をリゲル星にたくさん送り込みます。

今回は、アルタイル星を攻略したときよりもさらにたくさんのドラゴン達が集まってくれました。

ドラゴン達は、大きなリゲル星の中をパワフルに動き回り、暗黒の雲に稲光を輝かせ、闇のエネルギーを光に変えています。

エニフ星のエルフ達もやってきてくれました。今回は、創造主様から頂いたのでしょうか、闇のエネルギーから体を守る鎧の様なものを身に着けています。

彼等が持っている光りの槍もさらに強化され鋭い光を放っています。

エルフ達もドラゴン達に続いてリゲル星に入りました。

リゲル星の様々な所に隠れている闇のエネルギーや闇によって姿を変えられた者達を追い詰め光にもどしていきます。

そしてペガサス騎士団も、エルフ達と同じように、闇のエネルギーから身を守る鎧の様な馬具を身に着けています。

いつもながら勇ましいペガサス騎士団が、今日は一段と輝いています。

そしてケンタウルスの一団は、ペガサス騎士団の後ろから、光の矢を放ってペガサス騎士団の援護を行っています。

リゲル星の上空では、大きな光と闇のエネルギーが、激しく火花を散らしながらぶつかり合っています。

私達の前にいるアルデバラン星の騎士団も、リゲル星に突入したがつて雄叫びを上げていますが、団長が「未だ早い」と必死で止めています。

もうしばらく上空からリゲル星の闇を浄化しなければ、暗闇の大地に降り立っても、闇の存在達にやられてしまいます。

ペテルギウス星の創造主達も、ペテルギウス星から大きな光を送っています。

しばらくしてリゲル星の闇が晴れてくると、リゲル星の大地の様子を見守っていたさそり座のアンタレスから通信が入りました。

「リゲル星の闇はだいぶ晴れてきましたが、地上には闇の支配を受けた存在達がまだいるようですので、さそり座の騎士団とアルデ

バラン星の騎士団は注意深く入ってきてください。

TAKESHIさん達はもう少しお待ちください。」

その連絡を聴くや否やアルデバラン星の騎士団は雄叫びをあげながら、リゲル星に入っていきます。

全然、注意深くありません！

その後をさそり座の騎士団たちが追っていきますが、牡牛のような勢いで突入するアルデバラン星の騎士団には遅れをとっているようです。

私達とアルケイデース、そして女神アテナの親衛達は、リゲル星の様子を見守っています。美緒さんは待ちきれずシェンロンに乗って星の様子を見に行きました。

しかし上空から見た地上の世界もとても悲惨な状態で、気分が悪くなったようですぐに戻ってきました。

また、さそり座の団長からも「まだ早い！」とあって怒られたようです。

私達と医療チームは、リゲル星の様子を上空から見守り、リゲル星に光を送り続けます。

しばらくすると、トゥバン星のドラゴンやエニフ星のエルフ達、騎士団達の働きで、リゲル星の闇がどんどん晴れ、明るくなっていきます。

PART3 リゲル星に光のクリスタルを送る

そこで私達は次の作戦に移ります。

リゲル星に巨大なクリスタルのエネルギーをおくり込み、星のエネルギーを強化し安定させることです。

私は、今回の救出作戦のために、大きなクリスタルといくつもの丸石を、六芒星を描くように部屋にセッティングしてあります。

そして、この神聖幾何学を描いたクリスタルのエネルギーを、リゲル星を安定させるパワーにするために、魔法使いによって増幅してもらいリゲル星へと送る準備をします。

このために、1個の重さが20k近くある巨大クリスタルを数個私は準備したのです。

このようなときに力になるのが、神聖幾何学が得意な大天使メルキゼデクです。

大天使メルキゼデクの神聖幾何学の力によって、増幅されたクリスタルのエネルギーをスピリチュアルなエネルギーに変容してリゲル星に送りこみます。

そして、リゲル星にも同じ神聖幾何学を描いて、私の部屋のクリスタルのエネルギーをリゲル星に定着させていくのです。

魔法によって増幅されたクリスタル達のエネルギーは、神聖幾何学によってリゲル星に送られると、地上で巨大なクリスタルに変わります。

リゲル星のマザークリスタルが発見されて活性化されるまでは、これらのクリスタルのエネルギーでリゲル星を支えなくてははいけません。

そうしなければ、ドラゴンやエルフ達、多くの騎士団が、リゲル星にはいる事によってリゲル星のエネルギーのバランスが大きく変わり、星に異常が起きる可能性があるからです。

PART4 女神ペレーネ、最初の女神の目覚め

リゲル星は、トゥバン星のドラゴンやエニフ星のエルフ達、そして多くの騎士団達、大天使、魔法使いたちのおかげで、だいぶ闇がはれ、私達が降り立てる状態へと変わってきました。

私達は、アルケイデースと女神アテナの親衛達を連れ立って、リゲル星へと降り立ちました。

リゲル星は各地に争いの跡が残っています。それは、私達の騎士団と闇の存在達の戦いの跡もありますし、その前に起こっていた闇の存在とこの星の種族との戦いの跡でもあります。

様々な場所で闇のエネルギーに襲われて傷ついている騎士団やエルフ達がいるので、イシス様の救援隊とアスクレピオスの看護隊がすでに救援活動を行っています。

また、闇によって支配されていたモンスター達も、騎士団と戦い息絶えています。

女神アテナが、大地に倒れた存在達を悲しそうに見つめています。

「彼等も、この星が闇に侵される前は、善良な動物や人々だったに違いありません。しかし、彼等の心にも闇があったのです。その為に、自らの心が闇に支配されることを、彼らは許してしまいました。

彼等のスピリットが、光に帰れるように祈りましょう。」

たくさんの天使たちがこの地に舞い降り、彼らのスピリットをいだいて空に帰っていきます。

私達は、戦いの跡が残る場所をしばらく歩いていると、洞窟の入口のような場所にたどり着きました。

そこには傷ついた巨人達がいる、何か神聖な場所を守っているような感じでした。

私達が近づくと、巨人達は、手にした木の棒で私達を威嚇します。

「巨人達よ、私はこの星の女神達を探しているのです。」

巨人達の姿を見たアテナの親衛達が、急いで巨人達を取り囲みます。

巨人達は、傷ついて苦しそうにしていますが、私達を警戒して、私達から逃げようとしています。

しかし、脚の骨を折っているようで、動くたびに苦しそうにうめいています。

私はこの巨人達がとても善良そうに思えました。

それを見た遥さんは、魔法使いからもらった傷ついた人達を助けるための救急薬を巨人に渡しました。

そして遥さんは巨人達を優しい目で見て言いました。

「巨人さん達、逃げないで、私達はあなたを傷つけることはしません。

まずその傷を癒しましょう。

どうか、怖がらないで、私達を信頼して。」
遥さんの目には、特別な光があり、たとえ言葉が通じなくても、相手と心を通わせることが出来るのです。

巨人は、遥さんの目を見ながら、薬を飲んでいきます。

巨人達は遥さんの言葉に安心したようにため息をつきます。

そしてすぐにやってきてくれたイシスの救護隊の治療を受けてくれました。

巨人達の目に安らぎと安心の涙が光っているようです。

私達は、イシスの救護隊の治療が終わり巨人たちの体が回復していくのを待って話しかけました。

「私達はリゲル星を闇の支配から解放するために、ペテルギウス星の創造主の仲間達と共にこの星に降り立ちました。

私達はこの星のマスターや女神を探しています。

私達はマスターや女神達を助けだし、この星を元のようにしたいのです。

もし皆さんが、マスター達を知っているなら、私達に協力してくれませんか。」

そこにアルデバラン星の騎士団の団長が走り寄ってきました。

彼が巨人達に声をかけると、巨人達はとてもうれしそうにしています。

巨人達と騎士団の団長は昔からの知り合いのようです。

団長が、脚をけがしている巨人の体を支えると、巨人は歩き始めました。

団長は、私についてくるようにと、目で合図を送ります。

遙さんも心配そうに巨人に寄り添って歩きます。

巨人は、洞窟の中に入りしばらく進みます。そして洞窟の突き当りに来ると、木の棒を振るって洞窟の壁を壊します。

そして、壁の奥にある通路を通して、さらに奥の場所へと私達を導きました。

たどり着いた先には、黒くなり力を失ったクリスタルが眠っていました。

私達はクリスタルに光を送ります。
大天使ラジエル様と大天使ミカエル、そして大天使ザドギエルも現れてくれました。
私達は、クリスタルに光の種を入れ、星に光を送るためのワンドを全員でクリスタルに向けて祈ります。

するとクリスタルが、まるで黒い土が洗い流されるように、どんどんきれいになっていきます。

そして、クリスタルの中から美しい光が輝き始めました。

そして光が一段と大きく輝くとそこには、ペレーネと呼ばれる女神が立っていました。

女神ペレーネの姿を見ると、先ほどの巨人達が、頭を地につけるようにして敬意を表しています。

女神ペレーネはその姿を見ると、とてもいとおしそうに、彼らの体をなでていきます。
巨人達は、この女神を守っていたのでしょう、とてもうれしそうにしています。

女神ペレーネは、私達の姿にきずき、私達を見てにっこりとほほ笑んでいます。

昔から女神アテナやアルデバラン星の騎士団の事は良く知っているようです。

女神ペレーネは、しばらくの間、女神アテナと話をして一体何が起こったのか聞いているようです。

女神アテナとの話が終わると、女神ペレーネは私達の前に来て深くお辞儀をしました。

「偉大なる地球の英雄たちよ、わがリゲル星を闇の力から救い出していただき大変ありがとうございます。

私達は大いなる闇が訪れた時、この星が闇に飲み込まれないように祈り戦っておりましたが、天空の女神が捉えられ、この星に光が失われると、自分達の身を守るために、クリスタルの中にその身を隠しました。

仲間の女神達も、いつかこの星を救う者達が現れるまで、クリスタルの中に身を隠したのです。

そしてついに、その時はやってきました。

私達の星は、再び光の中で目覚める時を待っています。

どうか、皆さんのお力でこの星を救ってください。

私達の仲間を目覚めさせ、この星のクリスタルを再び輝かせてください。」

女神ペレーネは、私達の前で涙を流しながら真剣に訴えています。

「女神ペレーネよ、私達はこの星を救うために、ここに来たのです。

ペテルギウス星の創造主とその仲間達によって、この星は救われたのです。

どうか、一緒にあなたの仲間達を探しましょう。」

私は、女神ペレーネの手を取って立ち上がらせませす。

女神アテナもアルデバラン星の騎士団の団長も喜んでいきます。

横で美緒さんがぽつりと言います。

「TAKESHI さんたら、あんなに怖がっていたのに、美しい女神が出てくると全然張りきっちゃうんだから。

本当に、分かり易いんだから。」

葵さんが、美緒さんの体を肘でつつき、唇に手を当てて「静かに！」と言います。

女神ペレーネが、この星で起きたことを私達に話してくれます。

彼女はこの星のいくつかの次元（働き）の中でも、動物等の生命の源となる女神だそうです。

「リゲル星では、リゲル星のメインとなるマザークリスタルを守るように7つのサブクリスタルがあります。

先ほどご覧になったクリスタルも、汚れてはいましたがサブクリスタルの一つです。

サブクリスタルには、それぞれ働きがあり、協力してこの星を守っていました。

そして、サブクリスタルは、それぞれのマスター達が守っていたのですが、その中の2人がこの星の支配権をめぐる、天空の女神と争い、この星に混乱と破壊をもたらしたのです。

本来ならば、星とその星に生きる生命を守るマスター達であるにもかかわらず、彼らが闇に飲み込まれていったおかげで、リゲル星は急速に輝きを失い、闇の手に落ちていきました。

2人のマスター達は強大なパワーをもってこの星を支配しようとしていました。

他の女神達も仲裁に入り警告を行ったのですが、すでに彼らの心は憎しみや支配欲に満ち溢れていました。

そして、他の女神にも、自分の指示に従う事を求めてきたのですが、私達は、戦いも支配も好みませんので、その申し出をお断りしました。

すると2人のマスターの心に、さらに怒りと憎悪が生まれ、他の女神やリゲル星の人々を支配するために、自分たちのパワーを乱用しはじめました。

その結果、この星の中に闇のエネルギーが蔓延し、もともとは純粋な愛によって生きていた人達の中にも、この闇の力が忍び込みました。

そしてついに、リゲル星は闇が支配する星へと変わってしまったのです。

人々の姿も、美しい天使のような姿から醜いモンスターの様な姿に変わってしまいました。」

女神ペレーネはとても悲しそうな顔をしました。

「この星の様子を嫌って、リゲル星から逃げ出した人達もいましたが、その人達の心の中には、すでに闇の種が入り込んでいたために、その人達が、他の星に移動すると、その星に闇を呼び込み、星を荒廃させる事になってしまいました。

そのために、創造主達からこの星は閉ざされ、外に出る事も、また外から入る事もできなくなったそうです。

そして、ついにマザークリスタルも力を失い、リゲル星は闇の世界へと落ちていったのです。」

女神ペレーネはそのように語ると、深いため息をつきました。

リゲル星の人によって傷付けられたウサギ座の人達の事を悲しんでいるようです。

「私達、リゲル星の残された女神達は、今は何もできないけれど、再び目覚めたときは、死に物狂いでこの星を光の星に帰そうと約束して眠りについたので。」

私達は、地球からこのリゲル星を助けるために来たこと、そして宇宙の多くのマスター達や天使たちが共に働いていることを伝えました。

女神ペレーネはその話を聞くと、心に希望の灯がともされたように明るい笑顔を見せてくれました。

そしてリゲル星の女神達を助けたいという私達の思いに涙を浮かべ、自分が他の女神やマスターのもとに、私達を案内してくれることを約束してくれました。

第6章 リゲル星の悲しみの 女神達

PART1 水の生命の女神を愛で癒す

少し落ち着きを取り戻したリゲル星では、多くの仲間たちが集まってリゲル星のために働いています。

エニフ星のエルフ達やペガサス騎士団たちは、リゲル星の傷ついた人々を看護したり、イシスの癒しの宮殿やアスクレピオスの癒しの神殿へと人々を送っています。

さそり座の騎士団とアルデバラン星の騎士団たちは、闇に心を奪われた存在達を処理しながら、星の隅々まで傷ついた人達がいなか探しているようです。

そしてトゥバン星のドラゴンや大天使たちは、リゲル星とこの星に生きる生命達のために光りを送り続けています。

やがて白鳥座のフェアリー達やこと座の仲間達も到着しました。

フェアリー達は、リゲル星の自然を再生擦るために、大地にフェアリーたちの光りを満ち溢れさせ、植物たちが生きていくことが出来るような環境を作っています。

とても器用で働き者のホビット達は、クリスタルのための神殿や人々が生活するための住居を作っています。

ベガ星の神々は、ここでも傷ついた人達や騎士団のために食事の準備をしています。

星の復興作業は彼らにお願いして、女神ペレーネと私達は、他のマスターを探すためにリゲル星を旅することにしました。

共に行くのは、私達宇宙の光のメンバーとアルケイデース、さそり座の騎士団とアルデバラン星の騎士団の団長、そして女神アテナの親衛達です。

そして、仲よくなったばかりのケンタウルスも、少しばかり離れたところをついてきます。

女神ペレーネが、最初に案内してくれたのは、マーメイド達が住んでいる森の中の湖です。森といっても、周りの木々は焼け焦がれていますし、葉っぱも枯れ落ちたりしていて生命力がありません。

森の動物や鳥たちも、どこかに姿を隠しているようです。

私達が見た湖は、汚れ果て黒々として魚達はもちろん、そのほかの生命も生きている様子がありません。

女神ペレーネは、この湖を指さして言います。「この湖には、昔から美しいマーメイド達が住んでいたのですが、今ではその姿を見ることが出来ません。

この湖の底にも、森の動物や湖の魚達の生命を支える大切なクリスタルがあるのです。本当は美しく透明な水をたたえていた湖なのですが、今はこんなになってしまっただけです。この汚れた水をどうにかしないとクリスタルが輝きを失ってしまいます。」

私は、ふたご座の海のマスターに頼むことにしました。

「偉大なるマーメイドの女神よ、どうかこの湖へあなたの神聖な光を送ってください。

神聖な光で、この汚れた水を浄化し、万物の生みの親である神聖な水へと変えてください。」

マーメイドの女神の姿が湖の上に現れました。

美しい歌声と共にこの湖にたくさんの光が流れ込んできました。

すると黒く汚れきった水の粒子が次々と蒸発して空気中に消えていきます。

しばらく様子を見てみると、やがて黒い粒子がなくなり、美しい水に変わっていききました。

遙さんが湖に近寄り、湖の水を手ですくって湖面に落としています。

太陽の光りを浴びて、水がキラキラと輝いています。

「美しい水、神聖な輝き。」遙さんが嬉しそうに呟いています。

遙さんの目の前を小さな魚が横切っています。

湖の水がきれいになると、透明感がまし、湖の底に隠された通路が見えます。

さっそくアルケイデースとケンタウルスが湖に飛び込んで通路の中に入って行きました。

しばらくすると、通路の奥に大きな水晶が見つかったようです。

湖の奥にある通路を通り抜けていくと、その通路は別の空間へとつながっていました。

その空間には、美しいハスの花が咲き、その中央に大きなクリスタルがあります。

しかし、クリスタルは、泥の中に半分埋もれて輝きを失っています。

アルケイデースと騎士団の団長たちが、クリスタルを泥の中から持ち上げ、泥から出そうとしましたがなかなか持ち上がりません。体格の良い男たちが汗まみれになってクリスタルを動かそうと頑張っています。その様子を見た女神アテナは、男達を横にどけて、自分の大きな剣をクリスタルに向けます。一体何をするのだろうと、みんなで見守っています。

すると女神アテナは、泥に埋もれたクリスタルの下に長い剣を突き刺し、硬い石を剣の中ほどの下に置きました。

そして「エイ！」と叫んで剣のつかを下に押し下げると、てこの応用で、クリスタルが泥から飛び上がるように出てきました。

アルケイデース達が急いでクリスタルを受け止め、平たい場所に移します。

さすが宇宙最強の戦士と言われた女神アテナ、力だけでなく頭も最強のようです。美緒さんは女神アテナのその姿を見て大興奮です。

クリスタルを調べると、中に小さな女神が閉じこもっているのが見えます。

女神ペレーネがすぐに近寄り呼びかけますが、女神は答えようともせず、目を閉じたままです。

私達は、大天使ラジエル様をお願いしてクリスタルに光を送りますが、反応がありません。女神ペレーネも一生懸命呼びかけてくれますが、ただ女神の悲しみだけが伝わってきます。

女神ペレーネがクリスタルを抱きかかえ、大粒の涙がクリスタルに落ちていきます。

すると、クリスタルの中にいる女神が、うっすらと目を開き、私達に思いを伝えてくれます。

「マスターを支配する闇の力によって、森が焼かれました。

多くの植物も動物も、魚たちも犠牲になってしまったのです。

傷つけられた生命達を癒してください。

この森を愛の力で癒してください。」

きっと自分達の家族のような森と森の動物達が、業火によって焼かれている光景を目の前にして、女神は気も狂わんばかり嘆き悲しんだことでしょう。

希望を失った女神の意識は、すでに異なる世界をさまよっているようです。

私達は、魔法の力や光ではなく、自分たちの心の神殿を開き、女神の悲しみを受け止めることしました。

私達にも苦しみや悲しみがあります。

もちろん、大切な家族を焼き払われた女神の苦しみには及びませんが、その思いを分かち合い、ハートの愛で癒す事にしました。

私は、聖母マリアと大天使ハニエルや大天使カマエルを呼びました。

2人とも偉大な愛と癒しのマスターです。

私は、彼女達にお願いして、この森と森にすむ生命達の心を癒し助けてくれるようお願いしました。

私達の心の神殿の光が、クリスタルの中に眠る女神に伝わり大きく広がっていきます。

やがて森が愛の光に包まれた時、女神はゆっくりと立ち上がりました。

女神ペレーネがすぐにこの女神のもとに駆け寄り、彼女の体を抱きかかえます。

「女神メリールどうか目を覚ましてください。

私です、ペレーネです。」

その言葉に、クリスタルから立ち上がった女神メリールは意識を取り戻したようです。

「あ、お姉さん、私達、まだ生きていたんだ、私の森は、動物は、魚は、そしてマーメイドはどうしたの。」

女神メリールはまだ上の空ですが、少しずつ自分の意識を取り戻してきました。

女神メリールは水の生命、森の生命をつかさどる女神であり、自分はこの場所に残り、森の再生のために努力することを私に告げてくれました。

そしてリゲル星が、1日も早く復興するように祈っていることも伝えてくれました。

PART2 木の精霊と始まりの森

私達と女神ペレーネの旅は続きます。

ペレーネが案内してくれたのは、草原の中にたたずむ大きな一本の巨木です。

おそらくこの場所は、美しい森や野原だったかもしれません。

先ほどの森と同じように、植物たちが焼かれ、動物や鳥、昆虫たちも姿を隠しています。

女神ペレーネが、ケンタウルスと一緒に何かを探しているようです。

「TAKESHIさん、ここにはこの惑星の大地に関わる大切なクリスタルがあるのです。この巨木に守られているはずですので、探してください。」

ここは、かつて樹木に囲まれた神殿で、惑星のクリスタルがあったようですが、今では神殿も焼け落ち、クリスタルも見当たりません。

おそらく、このクリスタルを守る者達によって、地下か別の次元に隠されたのでしょう。大天使ラジエル様をお呼びして、地下に降りる階段を開いてもらいました。

階段を下りると、この樹木の根に守られるようにして巨大なクリスタルが隠されています。

しかし、このクリスタルも元気がありません。他のクリスタルが傷つけられていることが分かっているようです。

このクリスタルは、他のクリスタル達に一生懸命エネルギーを送り、壊れないように支えているようです。

さて、どのようにしたらこのクリスタルのパワーを蘇らせることができるのでしょうか。私は気の根っこに手をあて、しばらく瞑想します。

するとひとりの木の精霊が、私達の後ろに現れました。

まるで「指輪物語」の映画に出てくる巨大な木の生き物「エント（オノドリム）」のようです。

「あなた方は誰ですか。」木の精霊が私達に声をかけます。

そして振り向いた女神ペレーネを見て驚いたような声を出します。

「もしかしたら、あなたは女神ペレーネ様ですか、ご無事だったのですね。

本当に良かった。」

この木の精霊は、たった一人でこのクリスタルを守っていたようです。

女神ペレーネと私達を見て、安心したのか、大地の上に座り込んでしまいました。

ここのクリスタルと森は、女神ではなく木の精霊たちが守護をしているようです。

遥さんが、木の精霊に挨拶をします。

遥さんは、このような精霊やフェアリー達と心を通わすことが出来る不思議な能力をもっているのです。

「木の精霊さん、もう大丈夫ですよ。

この星はやがて生まれ変わります。

そのために、私達に力を貸してください。」

木の精霊が、自分の心に響く不思議な声に嬉しそうにうなずいています。

私達は木の根っこに手をあて、そこから光を送ることにしました。

皆で、木の根っこを囲むようにして光を送りますが、この木の精霊からも大きな悲しみが伝わってきます。

「私の森もみんな焼き尽くされてしまった。私だけは、この星のクリスタルが守ってくれたが、みんなこの世界からいなくなってしまった。」

木の精霊の中に少しばかりの恐れと憎しみが芽生えてきているようです。

遥さんがそのことに気づき、木の精霊に寄り添って言います。

「木の精霊さん。

哀しいのは、みんな同じよ、

水の女神も動物たちの女神も傷つき、心に大きな苦しみと悲しみを宿しているわ。

でも、悲しみはもう終わる。

新しい時代が来るから、元気を出して、、、」

木の精霊の目にも涙が光ります。

クリスタルが光り輝き始めると、木の精霊も元気になっていきます。

萎れていた枝や葉っぱが元気になって輝き始めました。

木の精霊も、この世界がもとのように美しい世界に戻ってくれることを願っているようです。

その様な気の精霊たちの声が届いたのか、ホビット達があらわれて、植物の種をこの木の周りにたくさん植えています。

フェアリー達は、大地に力を与え、植物たちが育つように光を送っています。

私はふたご座のカストル星のマスターであるトート神を呼び出します。

彼は、空を飛ぶ生命達のマスターでもありますので、この樹木たちの事を助けてくれるはずです。

「偉大なるトート神よ、あなたにお願いがあります。

この焼け野原となった場所に、あなたの方で鳥や蜂、昆虫たちを生まだしてください。そしてこの野原が多くの生命達で満たされるようにしてください。」

トート神はうなずくと、上空に上がりこの場所に大きく神聖幾何学を描きます。

すると幾筋もの光が、クリスタルを抱えた樹木の周りに降り注ぎます。

そしてその光が周りに広がると、ホビット達が植えてくれた種から芽が出てすくすくと育ってきました。

美しい花を咲かせる種もあれば、小さな樹木になり果実を实らせようとする種もあります。

空を横切るように小鳥がこの地に降り立ち、一本だけ残っていた樹木にとまりさえずり始めます。

すると、他の様々な姿をした鳥たちも、この樹木に降り立ちさえずり始めました。

周りの花々には、蜂が蜜を取り、昆虫たちも戯れています。

若い樹木に果実が実ると、鳥たちがその果実を食べ、その種をさらに遠くの場所に運んでいくようです。

木の精霊もホビット達も大喜びです。

その姿を見たトート神は、満足げに上空へと消えていきました。

おそらくこの場所から、この星の様々な場所へ、草木や鳥、昆虫たちが広がっていく事でしょう。

私達は、この場所を「始まりの森」と名付けました。

私達は、木の精霊と少しでも早く、惑星のマザークリスタルを見つけ、この惑星にパワーと光を取り戻すことを約束して次に進みます。

PART3 海底深く沈んだクリスタルと海の女神を蘇らせる

女神ペレーネとの旅は続きます。

私達は彼女の案内のもと、海へと向かいます。しかし、ここにあった神殿も今は廃墟になっています

「実はこの海のすぐそばに、海の神殿があったのです。

そして、海のクリスタルが海を見つめるように置かれていましたが、今はその姿もありません。

ここを守っているのは、この星の意識と深く関わっている海の女神です。

彼女は、きっとクリスタルと共にいると思いますが、一体どこに行ったのでしょうか。」女神ペレーネも途方に暮れています。

私は、ふたご座のボルテックス星のマーメイドの女神を呼び出し、海のクリスタルを見つけてくれるようお願いしました。

マーメイドの女神は、喜んで仲間のマーメイド達を呼んでくれました。

私達の目の前に大きな光が輝いたかと思うと、たくさんのマーメイド達が、海の中にどんどん飛び込み、波に乗って泳いでいきます。アルケイデースもマーメイド達を追いかけるように、海の中に飛び込んでいきました。

しかしこの海も、決して美しい海ではありません。

どんよりとしたエネルギーに満ちて魚たちもいません。

女神アテナが、マーメイドの事を心配して言います。

「TAKESHI さん、この海にはどんな危険が待ち構えているかわかりません。

まず創造主様をお願いをして、海を綺麗にしてもらいマーメイド達を守ってもらいましょう。

そしてトゥバン星のドラゴンマスターをお願いして海の浄化が出来るドラゴン達に来てもらい、海の浄化をしてもらいましょう。」

私も確かにその方がよさそうだと思います。マーメイドの女神をお願いして、マーメイド達を呼び戻してもらいます。

「偉大なるペテルギウスの創造主様、このリゲル星の海に光を送ってください。
この海はまだ闇におおわれているようです。
この海を創造主様の力で、清らかな海に変えてください。
そして偉大なるトゥバン星のドラゴンマスターよ、この海を浄化することが出来るドラゴン達をこの海に送ってください。
ドラゴン達の力で、この海を安全な海にしてください。」

私達が祈り終わると、大きな姿の創造主様が海の上に現れます。

そして海の上に大きな虹をかけてくれました。

虹はキラキラと輝き、その光がどんどん海に落ちていきます。

すると海はキラキラと輝き始めるのです。

トゥバン星からも青いうろこを持つ水龍たちが応援にきてくれました。

空から威勢よく海の中に飛び込んで、海の浄化を始めていきます。

海の中に、彼らのうろこの色がキラキラと光り、海の中に潜む闇のエネルギーたちが処理されているようです。

私達は、海が浄化されている間に、騎士団たちを中心に、海の神殿を作りあげることになりました。

周りの山から残っている樹木を見つけてきて、柱を作り屋根を載せていきます。

何しろ、神殿を作るにも材料がありませんので、周りが困めればよいでしょう。

しばらくすると水龍のおかげで海の水が澄み渡ってきました。

再びマーメイド達が海に戻り、クリスタルを探し始めます。

水龍達も一緒にクリスタルを見つけてくれる事になりましたから安心です。

しばらくするとマーメイドから連絡が入りました。

クリスタルが見つかったようですが、何か問題があるようです。

私とアルケイデース、そして女神アテナが、マーメイド達が教えてくれた場所に向かいます。

海の中を進んでいくと、海底に大きな裂け目があります。

なにか、とてもネガティブなエネルギーが渦巻いているようにみえますが、おそらくこの中にクリスタルが沈められているのは間違いないでしょう。

ここは危険なので、水龍に守ってもらいアルケイデースと女神アテナが、海底の亀裂の中に入ります。

予想していたように、止めどもないネガティブな感情やエネルギーが押し寄せてくるようです。

海底に巨大なクリスタルがごろりと横になっている様子が見えてきました。

私達は、クリスタルに大きな鎖を巻き、水龍によって引き上げてもらう事にしました。アルケイデースは、クリスタルが岩にあたって壊れないように支えています。

女神アテナがクリスタルの前に立ち、剣で海の水の流れを変えているようです。

海の中で器用に剣を動かすことによって、うまく水流の方向をコントロールして、クリスタルが岩にぶつからないようにしているようです。

まるで、クリスタルが魚のように泳いでいるように見えます。

その姿を見て美緒さんが感動しています。「やっぱりアテナ様はすごい、やることがかっこ良すぎる。」美緒さんはすっかり女神アテネに憧れています。

クリスタルが、海底の裂け目から出てきて、海の上に顔を出します。女神ペレーネが嬉しそうな顔をしています。水龍をお願いして、海のそばに作ってある神殿にクリスタルを運んでもらい、みんなで取り囲みます。

私達は、いつものように大天使ラジエル様をお願いしてクリスタルを活性化してもらいます。私達も一緒にクリスタルに光を送ると、中に海の生物たちが泳いでいる様子が見えてきます。まるでクリスタルの中に、もう一つの海があるようです。クジラやイルカの姿が見える人もいれば、美しい魚達が群れをなして泳いでいる様子が見える人もいます。

美緒さんは、クリスタルの中の海を見て、はしゃいだように言います「TAKESHIさん、またマーメイドの女神をお願いして、この魚やイルカたちをこの海に、放してあげたらどうかしら。きっと、昔みたいに美しい海になるはずだわ。」美緒さんはそう言って、マーメイドの女神をお願いしていますが、マーメイドの女神はっこり笑ったまま動きません。

葵さんは、目を閉じたままクリスタルに手を当てて、何かメッセージを受けとっているようです。

「このクリスタルの中に誰かいる。」とつぶやきます。

「TAKESHI さん、このクリスタルの中に海の女神が封印されているようです。

私の心の中に、女神の哀しい声が聞こえてきます。」

葵さんは、そうやって女神の言葉を伝え始めました。

「私は、この海の底でクリスタルと共に深い眠りについていました。

この星の意識が傷つけられ、多くの女神とクリスタルの力が失われました。

しかし、私達は生まれ変わらなければなりません。

私達は、いつでも希望をもって歩み始めなければなりません。」

葵さんは、自分の心の中に送られてくるメッセージを私達に伝えてきます。

私達は、葵さんが伝えてくる言葉に意識を合わせます。

そしてクリスタルに向かって、創造主から頂いた「星に光を送るワンド」を使って光を送ります。

しばらくすると、クリスタルが大きく輝き始めました。

そしてほかの女神達と同じように、クリスタルの中から「海の女神セラル」が、あらわれてきました。

彼女の姿を見て、女神ペレーネは喜んで走り寄り、彼女に抱きついていきます。

「お姉さん無事でよかった。」

私もメリアルも、この人たちに助けてもらいました。

リゲル星は必ず生まれ変わると信じていた、お姉さんの願いが通じたのです。

リゲル星は、今迄の闇に閉ざされたリゲル星ではないのです。

新しい希望を持ったリゲル星に生まれ変わったのです。」

海の女神セラルも女神ペレーネを抱きしめながら喜んでいます。

「私達は、必ずその日が来ると信じていました。

ペレーネ、良かった、本当に良かった。またみんなで素晴らしい星が作れるわ。」

海の女神セラルは、女神ペレーネと共に、私達の方を向いて深くお辞儀をします。

「皆さん、ありがとうございました。

私達姉妹を助けてくださって心からお礼申し上げます。

ここでは、全ての女神と精霊たちが一つになって、リゲル星の意識を作りあげています。」

今3人の女神と木の精霊の意識が一つにつながっています。

私にはその優しくて懐かしい波動が伝わってきます。

女神セラルが続けて話します。

「私達もそしてこのリゲル星も、新しく生まれ変わろうとしています。

私達は、さらに深く星の意識とつながり、皆さんがせっかく浄化してくれた星を、きれいなまま守り続けます。

問題は、天空のクリスタルとそれを狙っていたマスター達です。

彼等が今どのように状態になっているのか、私達はとても心配ですが、きっと皆さんや創造主様がついていて下さるので、この星は必ず元の様な素晴らしい星に生まれ変わってしょう。

私達は信頼して、皆さんについていきます。」

女神ペレーネと海の女神セラルは強い信念をもって、私達と共に、このリゲル星を立て直すために、全力で働くことを誓っています。海の女神セラルが大きな光を放つと、海のクリスタルから、多くの魚たちやイルカ、クジラ達が生まれ変わった海に解放されていきます。

それでは、私達は、問題の天空の塔へと歩を進めていく事にして、今日の星のツアーを終了することにしました。

第7章 心の闇に飲み込まれた者達



PART1 リゲル星の7つの次元と7つのクリスタル

私達が次の週に行われる「星のツアー」を持つ間に、女神ペレーネはリゲル星のマザークリスタルとそれを助ける7つ次元のクリスタルのことを詳しく話してくれました。女神の話によると、以下のように7つの次元と7つのクリスタルがあるそうです。

1 天空のクリスタル

天空のクリスタルは、リゲル星の最も高い次元にあり、惑星の意識と生命の意識を一つにします。

天空の塔の中に置かれていたのですが、天空のクリスタルを守護する女神は、感情のクリスタルのマスターによって塔の中に幽閉され、力を失っているようです。

2 感情のクリスタル

生命を豊かに成長させるために、感情を司っていたクリスタルで2番目に高い次元を担当します。

この感情を司るクリスタルのマスターが、自らの感情におぼれ、この星を支配しようとしたくらしに落ちてしまいました。

その結果、リゲル星は闇に閉ざされ、クリスタル達は力を失い、星の意識は分断されてしまいました。

このマスターが今どのようなになっているかはわかりません。

3 意識のクリスタル

生命達の意識を進化させ、発展させることを目的としたクリスタルで3番目の次元を担当します。

ただし、意識のクリスタルを守護するマスターは、感情をつかさどるマスターに利用されて、彼と共にリゲル星を支配しようとしたが、やがてリゲル星を離れて、二ハル星に移ったようです。

現在は、どこにいるのかは不明ですが、おそらくトート神が現れて預かっていた宇宙船が、このマスターの宇宙船のようです。

4 動物たちの生命をつかさどるクリスタル

動物や知的生命体を生み出す働きを持つクリスタルです。

物理的な生命体を扱う中では、最高次元ですが、クリスタルとしては4番目の次元を担当します。

最初に現れた女神ペレーネがこのクリスタルを守護しています。

現在では、クリスタルも輝きをまし、巨人族に守られています。

5 森の生命、植物や水の生命を守るクリスタル

マーメイド達が守る湖に隠されていたクリスタルで、5番目の次元を担当します。女神メリールによって守護されています。彼女が守る森や植物、動物たちは闇の支配を受けたマスターによって焼き払われてしまいましたが、現在、森の復興が急がれています。

6 生命ある物たちを守るクリスタル

すべての生命達に繁殖力と生きていくパワーを供給する役目のクリスタルで、6番目の次元を担当します。

幸い大きな樹木と木の精霊によってクリスタルは隠されていたために、大きな被害を受けていませんでした。

しかし、傷ついた他のクリスタル達を支えるために、力を出し尽くしていました。

このクリスタルだけは、女神やマスターではなく木の精霊が守っています。

7 星の生命力・エネルギーの再生をつかさどるクリスタル

深い海の中で、星の意識と深く結びつき、エネルギーの再生にかかわる大切な海のクリスタルです。

次元としては7番目ですが、一番深く惑星の意識とつながり、惑星全体を支えています。海底の深みから助け出され、海の女神セラルによって、再生を急がれています。

PART2 意識のクリスタルのマスター

再び、私達の星のツアーが始まりました。私達は、スカイプで「星のツアー」を始めるための祈りを捧げた後、シェンロンに乗ってリゲル星へと向かいました。

女神ペレーネからクリスタルの話を聞いて、このリゲル星のクリスタルと女神達の関係が良くわかりました。

私達が次に行くことは、意識のクリスタルのマスターを蘇らせることです。

私達は、女神ペレーネと共に、意識のクリスタルがある場所を目指します。

リゲル星の高い丘の上にクリスタルがぽつんと取り残されていました。

しかしクリスタルを守護しているはずのマスターは不在の状態です。

そこで思い出したのが、リゲル星から二ハル星にわたり、二ハル星を支配しようとして闇に落ちたマスターの事です。

二ハル星で岩と化した宇宙船の中で、闇によって幽閉されていたマスターを私達は救助し、トート神に預けたことがありました。

もしかしたら、そのマスターがリゲル星の意識のクリスタルを守るマスターかもしれないと思い、私達は意識のクリスタルの前に立ち、トート神を呼び出しました。

トート神が、風のごとく私達の前に現れました。

「皆さん、こんにちは。
そろそろお呼びになる頃だと思っておりました。

皆さんがお考えの通り、この意識のクリスタルを守護するマスターは、二ハル星で精霊たちに乱暴を働いていた者です。

私が、彼の行いを見かねて、宇宙船のなかに幽閉しておりました。

しかし、皆さんがリゲル星を再生させる事になりましたので、このマスターを再度教育しなおして、役目につけなければと思い、先日、私が預らせていただきました。

皆さんが、女神達と木の精霊を救い、神聖なるクリスタル達を甦らせてくれたおかげで、リゲル星のエネルギーはとても高くなってまいりました。

もう少しで、リゲル星のクリスタルがすべて復活し、リゲル星が光の世界へと戻ってくることになるでしょう。

その為に、このマスターも反省し、今まで以上に働きますので、どうかマスターとして役目につかせてください。」

トート神がそのように言い終わると、トート神の後ろから、意識のクリスタルのマスターが罰の悪そうな顔をして現れてきます。私達に同行している女神ペレーネを見ると、慌てて目をそらします。

私は、意識のクリスタルのマスターに言いました。

「あなたは、リゲル星だけでなくニハル星でも多くの人々や精霊に迷惑をかけましたが、それでもリゲル星の意識のクリスタルのマスターとして仕事をしていけますか。

あなたは、一番自分を律しなければならない立場であるにも関わらず、自分自身が星の人々に対して迷惑をかけた事を償うことが出来ますか。」

意識のクリスタルのマスターは、大変申し訳なさそうな顔をしてうつむいています。

その男らしくない態度に美緒さんも腹を立てたようです。

「あなたのような弱気のマスターに意識のクリスタルのマスターなんて勤まらないんじゃない。

おうちに帰ってお母さんに甘えていればいいのよ。」と毒舌を吐きます。

その言葉に、意識のクリスタルのマスターはむっとしたのか顔を上げて言います。

「いえ、私はいくつもの間違いを犯しました。私の心が、感情に負けてしまったからです。しかし、このような事は2度と起こしませんので、どうか私にもう一度、マスターを行わせてください。」

私は、女神ペレーネがどのような反応をするか、彼女の様子を見ました。

女神ペレーネは、ムツとした顔をしています。仕方がないというそぶりをします。

「わかりました、それでは、あなたが意識のクリスタルのマスターとしてふさわしいかどうか、これからの行動で決めることにしましょう。

私達はこれから、感情のクリスタルのマスターを捕まえて、天空のクリスタルの女神を開放しなければなりません。

この仕事を手伝ってください。

あなたが私達の期待に応えてくれたら、意識のクリスタルのマスターとして認めましょう。」

彼はすこし、がっかりしているようです。すぐにでも意識のクリスタルのマスターとして認めてもらえると思っていたようです。それを見て美緒さんが言います。

「まあ、お坊ちゃま、頑張ってくださいね。」意識のクリスタルのマスターも、その言葉に怒りを隠せないように、こぶしを強く握りしめています。

それを見たトート神も笑っています。意識のクリスタルのマスターに向かって「まず、彼女に認めてもらえるようにしっかりと働きなさい。」と言っています。

女神ペレーネも「それならばいいですよ。」と同意してくれました。

これから、天空のクリスタルの女神を救出に行く私達に、頼りない仲間が一人増えました。

PART3 リゲル星で吹き荒れた闇の支配

私達の仲間になった彼は、このリゲル星で何が起こったのかを詳しく話してくれました。

「私と感情のクリスタルのマスターは、日頃から仲が良く、リゲル星の事についてよく話をしていました。

しかし、何時の頃からか、彼は「自分のことが、認められていない。」とか、「自分がリゲル星を統治したほうがうまくいく。」などという言葉をつくようになりました。

私も最初は、彼の冗談だろうと思って、相手にしていなかったのですが、次第に彼が本気でその様に思っているという事が分かってきたのです。

或る時、彼は自分が天空のクリスタルの女神を捕えて力を奪うから、私が他のクリスタルの女神を仲間に引き入れてくれないかと、持ちかけてきました。

計画がうまく言ったら、自分が王様になり、私には2番目の地位を与えてやるからという約束をしようとしたのです。

私は、最初は断っていたのですが、次第に感情のクリスタルのマスターの夢物語が自分にも現実のように思えてきたのです。

私も、いつしか自らこの星を支配しようという欲望にかられ、彼と一緒にこの星の女神達を支配することを始めてしまいました。

感情のマスターは、天空のクリスタルの女神を強引に連れ去り、塔の高い場所に幽閉し傷つけました。

天空のクリスタルの女神の光が届かなくなると、他のクリスタルも陰り始め、女神達は次第に力をなくしていったのです。

そして、私達は、他の女神達にも、暴力的な行いを繰り返すようになり、リゲル星は、闇のエネルギーを強くしていきました。

女神達は、自分とクリスタルが傷つけられることを恐れ、自らのクリスタルの中に閉じこもりました。

しかし、クリスタルを守っていた巨人達やマーメイド、樹木の精霊たちは傷つけられ、大切な命を失っていきました。

女神達の嘆きは、この星中に響き渡り、全ての生命達に絶望と恐怖を植え付けていったのです。

この星を守るクリスタルと女神の力を失ったリゲル星は、どんどん闇を深くしていきました。」

この話を聴いていた美緒さんは、また怒り始めました。

「本当にひどい話、あなたがしっかりとしていれば、感情のマスターを抑えてリゲル星を守ることも出来たのに、弱虫！」

葵さんがあわてて、美緒さんの口を押えましたが、遅かったようです。

美緒さんの言葉に自分自身の無力さを知らされたマスターは、沈んだ声で話を続けます。

「私も、感情のクリスタルのマスターのやり方は、おかしいと思っていましたが、彼の目から発せられる氷の様な冷気に見つめられると、何も言えなくなってしまったのです。

リゲル星は、女神達がクリスタルに閉じこもったことで、自然も荒廃し、植物も枯果て動物たちもいなくなりました。

せっかくリゲル星を手に入れたとおもったのに、リゲル星はどんどん荒れ果てていき魅力のない星になってしまいました。

感情のクリスタルのマスターはさらに荒れ狂い、残っている樹木を焼き払ったり、海のクリスタルを海の底に深く投げ込んだりしました。

そして、周りに誰もいなくなると、ますます深い闇にはまった彼の怒りは私に向けられるようになりました。

感情のクリスタルのマスターが、私に対して、暴力的な支配を行い始めたので、私は自分の身の危険を感じ、リゲル星を逃げ出しました。そして皆さんもご存じのように、ウサギ座の二ハル星へと渡ったのです。

そしてあろうことか、闇のエネルギーの暴力的な支配から逃げてきたにも関わらず、自ら闇のエネルギーとなって二ハル星を支配しようとしたのです。

私の心も、どんどん深い闇に飲み込まれていきました。

そして二ハル星を闇の星とし、自らも闇の中に閉じ込められてしまったのです。」

美緒さんがあきれて言います。

「しょうがない弱虫のマスター！あなたが一番悪いんじゃないの。」

今度は誰も止めようとはしません。

宇宙の光のメンバー達が全員で怒っています。

しかし、この弱い者達を支配する傾向は、私達の地球もまさに同じであると感じずにはいられませんでした。

私は、この意識のクリスタルのマスターのために、大天使たちを呼び、彼の心が再び闇に支配されないように祈りました。

そして、彼と共に、天空のクリスタルの女神の救出に出かけることにしました。

PART4 天空のクリスタルの女神の救出

私達は、意識のクリスタルのマスターの案内で、天空のマスターのもとに行くことにしました。

天空の塔は、とても高い塔ですが、塔の一番高い部屋に女神が閉じ込められているようです。

まず女神アテナの親衛隊が風のように塔の中に入り、塔の中をくまなく調べています。人はほとんどいないようですので、私達も入ります。

天空の塔の中にある階段をのぼりながら、一番高い部屋を目指します。

ところどころ壊れかけた階段がありますので、私達は注意深く階段を上っていきます。

美緒さんは女神アテナと共に、塔の外側をシェンロンで見回っています。

塔にある窓から女神を探し出しているようです。

美緒さんから、連絡がありました。

「TAKESHIさん、見つけたわ、塔の一番高い部屋に閉じ込められています。

だいぶ弱っているようですので、はやく行ってあげてください。」

私達は、一目散に塔の最上階を目指して急ぎます。

私達が最上階の部屋に入った時、女神は鎖につながれたままぐったりとした様子で横たわっています。

女神ペレーネが、天空のクリスタルの女神のもとに駆け寄り、涙ながらに彼女の体を抱きしめます。

「女神よ、さぞ苦しかったことでしょう。でも、リゲル星は生まれ変わるときが来ました。」

騎士団の団長が急いでその鎖をはずし、女神を自由にします。

一体どれほどの長い時間、このように鎖でつながれたままだったのでしょうか。

彼女から苦しみと悲しみのエネルギーが伝わってきますが、同時に彼女の心の中に燃えたぎるような信念が、私達に伝わってきます。私達は、すぐに女神に元気を取り戻す薬を与えました。

そして彼女を囲み、意識を取り戻すように光のワンドで光を送り祈ります。

遥さんは、女神の胸に手をあて、彼女の心の中にある苦しみや悲しみに自分の気持ちを合わせて癒しています。

私は、心の中でアスクレピオス様をお呼びします。

すぐにアスクレピオス様が現れ、彼女の様子を見てもらいました。

アスクレピオス様もリゲル星の女神達の事をととても心配していたようです。

診断した後、ほっとしたような表情でアスクレピオス様が言います。

「命には別条はないようです。
それにしても、素晴らしい精神力です。
これだけ長い間、鎖につながれ、部屋に閉じ
込められていたなら、誰でも正気をなくしま
す。
しかし彼女のスピリットは、この困難な状況
に負けず希望を持ち続けていました。
彼女の体は、大変に弱り切っていますので、
すぐに私の神殿へと運んでください。」

しかしこの塔の階段を、彼女を抱えたまま降
りるのは、彼女の体に負担がかかりそうです。
するとアルケイデースが、私に任せてくださ
いと言います。

「私が、この塔の窓から女神を抱えたまま、
美緒さんのシェンロンに乗り移りますから、
そのままアスクレピオス様の「癒しの神殿」
に運んでください。」

私も、その方が良いような気がします。
さそり座とおうし座の団長もうなずきます。
私は、美緒さんと呼び、シェンロンを塔の窓
に寄せてもらいます。
アルケイデースが女神を抱え、さそり座とお
うし座の団長が、両側から支えます。
そして、アルケイデースが女神を抱きかかえ
たまま、美緒さんがアスクレピオス様の癒し
の神殿へとシェンロンを走らせます。

天空のクリスタルの女神の心は、闇にその心
を支配されている様子はありませんでした。
きっと彼女は自分の心の純粋性を守るため
に、最後まで戦った様子です。
女神はとても髪の高い女性でしたので、「塔
の上のラプンツエル」と勝手に名付けてしま
いました。

次に私達はこの塔の中に隠されているクリスタルを見つけださなければなりません。手分けをして、塔の中を探すと女神が閉じ込められた部屋から2つ下の階の広間に、天空のクリスタルは置いてありました。おそらく感情のクリスタルのマスターが、このクリスタルを従えようと、様々な手段を使ったようです。クリスタルは傷つき、輝きを失っています。

私達は、騎士団とアテナの護衛達に部屋の周りを警備してもらいます。私達がクリスタルを活性化している間に、感情のクリスタルのマスター達が、私達のもとに現れ乱暴を働く可能性があるからです。私達の間には緊張が走ります。

私達は、部屋の中でクリスタルを活性化することに集中したいと思います。大天使ラジエル様を呼んで光を送ってもらうとともに、私達もクリスタルへと祈りを込めていきます。そして、このクリスタルは大切なクリスタルですので、ペテルギウス星の創造主様にも光を送ってもらいます。しばらくすると、クリスタルに少しずつ光が戻り始めましたが、やはり女神の意識がまだ十分に戻っていない以上、完全な活性化は無理なようです。

PART5 闇に飲み込まれた者達

天上のクリスタルと女神を救出し、次に感情のクリスタルの元へと私達は、進むことにしました。恐らく、このリゲル星救出の最大の山場です。

闇に落ちた感情のマスターはどのような姿で現れ、私達にどのような攻撃を仕掛けてくるのでしょうか、さすがに私も不安と恐怖が押し寄せてきます。

天空の塔を全て調べ終わりましたが、ここには感情のクリスタルのマスターはいませんでした。

私が、意識のクリスタルのマスターに、彼の居場所について心あたりがないか尋ねると、意識のクリスタルのマスターは、おそらく自分のクリスタルのもとにいるであろうと教えてくれました。

私達は、意識のクリスタルのマスターの案内で感情のクリスタルが置いてある場所へと急ぎます。

私達は、シェンロンにのり、騎士団たちはペガサスを呼んで、山々を超えて目指す場所へと向かいます。

私達は、山の中腹にある広場に降り立ち、後は、山の中にある一本の暗い道を進みます。そして行き着いた先は、驚いたことに、半ば地下に埋もれたような崩れかけた神殿です。

感情のクリスタルのマスターは、この星を手に入れたので、このような崩れかけた神殿にいる必要はないのですが、一体彼に何が起きているのでしょうか。

地中に埋まっている神殿から闇のエネルギーを抜き取るために、ホビットたちがマカバ型の箱で神殿の深い部分まで包み込み、闇のエネルギーを吸収して光にかえています。

マカバ型の箱は、闇を吸収しどんどん光に満たしていますが、この神殿はあまりにも大きな闇に満ちているようです。

大天使ラジエル様や大天使ミカエルたちにも応援してもらい、この神殿に光を送ってもらいます。

私達も神殿の中に入るのは危険なので、周りから光のワンドを使って光を送ります。

その神殿の上には、大きな闇の渦巻きが、黒々と見えます。

深い闇のエネルギーがここからリゲル星全体に送られているようです。

セントジャーメインやマーリンたちの魔法使いグループも応援に来てくれました。

闇が、リゲル星に広がらないように、神殿の周りに神聖幾何学を描き、闇のエネルギーを閉じ込めます。

そしてその間、トート神が、闇の渦巻きが大きくならないように時間を止めました。

さそり座騎士団、アルデバラン星の騎士団、女神アテナとアテナの親衛隊が、神殿のなかに入り闇のエネルギーを浄化していきます。

闇がだいぶ薄れたところで、私達も感情のクリスタルのマスターの神殿に入りました。暗く重たい雰囲気の中を進むと、すでに女神アテナの親衛隊が、感情のクリスタルのマスターを見つけ取り囲んでいます。

感情のマスターは、神殿の片隅で力なくうずくまり、闇におびえ、恐怖と絶望に取りつかれたように震えていました。

私達は、闇に取り付かれた凶暴なマスターを創造していたのですが、そこに座り込んでいるマスターは、闇によって自分の生命力も吸い取られて意識も錯乱し、ただ生きているだけで精いっぱいという感じの男です。

彼は私達を見ておびえた声で言います。

「どうか助けてください。
私は闇に取り付かれて、この星を支配しよう
としました。
しかし、闇によって自分の生命エネルギーを
吸い取られてしまいました。
今の私は、なんの力もありません。
ただここに座り込んでいるだけです。
どうか私を助けてください。」
彼はさすがのような目で私達を見ます。

私達のグループに女神ペレーネと感情のク
リスタルのマスターがいることを知って彼
は驚いています。

「おお、女神ペレーネさま、どうかわたしを
お許してください。
私は闇の力によって騙されていたのです。」
彼は、女神ペレーネの前にうずくまっていま
す。
女神ペレーネはその姿を冷ややかな目で見
ています。

きっと美緒さんがいたら、怒って蹴飛ばして
いたかもしれません。

「バツ！！」という音が突然響きました。
「あれ！美緒さんが戻ってきたのかな」と思
ったら、不思議ちゃんの遙さんが、感情のク
リスタルのマスターの前に立ち、光を送るワ
ンドで、彼の頬を思いっきりぶったようです。
「何を甘えているのですか、
さんざん多くの女神と植物や動物、海の生物
まで、残らず傷つけておきながら、自分には
もう力がないから許してくれ！なんて、あま
りにも虫が良すぎるわ。
この闇の渦巻きの中で死ぬまで、自分がした
ことを悔いて生きなさい。
そして虫けらのように、闇の中で朽ち果てな
さい。」

遥さんの心の中に、このマスターによって生命を奪われた物たちの苦しみと悲しみがあふれるように広がっていました。

そしてそれ以上に、この星に生残った者達の、愛する者が殺された事への憎しみと怒りが満ち溢れています。

いつもおとなしく優しい遥さんなのに、今は怒りでいっぱいです。

葵さんもほかのメンバー達も同じように怒りで満ち溢れています。

すると女神アテナが、急に遥さん前に立ちました。

「遥さん、怒りや憎しみに自分の心を奪われないで、それが闇に落ちる第一歩よ
あなたの心から燃えたぎるような感情を早く捨ててください。

さあ、私と一緒にここを出て頭を冷やしましょう。」

そういって、女神アテナは、バタバタと暴れる遥さんを抱きかかえると急いでこの神殿を出ていきました。

そそり座の団長であるアンタレスが、私達に言います。

「これが闇の手口です。
純真な心を持った者に、怒りと憎しみを持たせ、他人を攻撃させるのです。
その手に乗ったら、自分の心の中にも闇が入り込みます。
皆さん自分の心を冷静に保ってください。」

私は、「白鳥の六芒星」の仕事をしている時に、大天使ザドギエルから「闇を憎んだり恐れたりしてはいけない」という言葉を聴いていましたが、本当は理解できていませんでした。

それが、この事だったのかと、今、私の心の中で納得できました。

PART6 闇の渦巻きを光りに満たす

その間に大天使ラファエルとザドギエルが来て、感情のクリスタルのマスターを癒していますが、闇のエネルギーにさえぎられて、彼の心の奥にまで、大天使の光が入って行きません。

感情のクリスタルのマスターの上には、大きな闇の渦巻きが広がっていますので、その渦巻きの中に天使達のエネルギーも吸収されていくようです。

私は、二ハル星で試した闇の渦巻きの対処法を試みる事にしました。

私は、彼のハートに手を当てて、私のハートから光を送ります。

闇を光に統合する「光の人の遺伝子」と「光の天使の遺伝子」が、傷ついたマスターのハートの中に、どんどん送られています。

すると彼の体から生まれていた闇の渦巻きの中に「光の遺伝子」がどんどん広がって行っています。

そして、闇の粒子や闇の遺伝子と反応してパチパチと火花を散らしています。

それは、闇の渦巻き全体に広がり、大きな花火のように火花が飛び散っています。

やがて、火花が少しずつ少なくなっていきました。

それにつれて闇の渦巻きが小さく、そして薄い色になっていきます。

感情のクリスタルのマスターは、火花が散っている間は、何が起こったのかわからず、恐れに体を震わしていました。

「あなたの生命エネルギーを奪い取っていた闇の渦巻きは消滅しました。

あなたの心の中からは闇の支配はなくなりましたが、あなたがまたエゴに捕らわれたならば、あなたの中には、もう取り返すことが出来ないほどの大きな闇のエネルギーが満ち溢れるでしょう。」

「いえ、私はもう絶対に傲慢なことは考えませんし、他の生命を傷つけることもしません。皆さんが命じたままに生きていきますので、どうかお許してください。

女神ペレーネさま、これからは、女神のために力を尽くしますのでどうかおゆるしてください。」

このマスターは、どうも口が軽そうで信用できそうにありません。

女神ペレーネも、私と同じように考えているようです。

次に私達は、感情のクリスタルを修復しなければなりません。

闇の渦巻きがなくなった後に、黒々としてひび割れたクリスタルが、そこに取り残されていました。

まるでこのクリスタルを守護するマスターと同じように、光を失い、希望もプライドも失っています。

私達は、そのクリスタルに、光を送るワンドを使用して光を入れていきますが、光がどこかに漏れていくようで、クリスタルは活性化する見込みがありません。

もしかしたら、感情のクリスタルもそのマスターも修復することが不可能なのかもしれません。

ペテルギウスの創造主にお願いしても、クリスタルに光を入れてもらっても、輝き始める様子もありません。

私は、このクリスタルにも、光の遺伝子を入れ、クリスタルの中に宿っている闇の粒子と光りの粒子をスパークさせていきますが、しばらくすると火花も消え、闇のエネルギーだけが残ります。

私は、意識のクリスタルのマスターの教育を行ってくれたトート神に相談しました。

「トート神よ、このクリスタルも、クリスタルを守護するマスターも、光に戻る事はできないようです。

あなたのお力をお借りすることはできませんでしょうか。」

「TAKESHI さん、わかりました、感情のクリスタルのマスターも私が育てたマスターの一人ですので、私がお預かりして、彼を再教育してみましよう。」

トート神は、その様にいうと感情のクリスタルのマスターを連れて光に消えていきました。

マザークリスタルを開くためには、すべてのクリスタルとそのマスターたちが揃う必要があるそうです。

今回救出されたマスターを含め、まだ回復していないマスターたちも多く、マザークリスタルは次週取り掛かることになりました。私達は、シェンロンに乗って地球に帰ります。

第8章 天空のクリスタルから虹の光をつなぐ



PART1 ミツ星の賢者の帰還

オリオン座のリゲル星のマザークリスタルを回復させる前に、私達はもう一つ行わなければならないことがあります。

それが、オリオン座のミツ星といわれる非常に有名な星の光を取り戻すことです。

オリオン座のペテルギウス星は創造主の星で、オリオン座にとってお父さんのような役目です。

そして、このミツ星の3賢者は、ペテルギウス星の創造主にとっては息子の様な存在です。

ただし3賢者は、今も戻ってきていませんので、ミツ星の右上にあるベラトリックス星にいらっしゃるお母さんも悲しみに打ちひしがれていました。

ミツ星の賢者達は、リゲル星のマスターによって乱暴を受けたウサギ座の二ハル星に行

き、二ハル星を助けようとしたのですが、闇の力があまりにも強くて星の精霊たちを助けることが出来ませんでした。

そして、そのことを悔やみ悲しむうちに、自らも闇に閉じ込められ、三ツ星に帰ることができなくなったのです。

私達は、二ハル星を闇の支配から解放した時にこの3賢者を救い出した事を、ペテルギウス星の創造主に伝えました。

創造主はとても喜んでくださり、その賢者たちを三ツ星に戻してくれるよう、私達にお願いされました。

私達はすぐにオリオン座の三ツ星の中央にあるアルニラム星へと行き、そこで待っていたマザーと対面しました。

「偉大なる三ツ星の母なる意識よ、私達は二ハル星において、三ツ星の3賢者を見つけましたので、彼らから闇のエネルギーを取り除き、彼らを救い出しました。

彼等は今、アスクルピオス様の治療院で手当てを受けております。」

お母さんの意識も大変喜んでくれていることが分かります。

彼女の光が一段と大きく輝きます。

「それは本当の事ですか。

私達の子供たちは元気なのでしょうか。

この星に戻ってくることが出来るのでしょうか。」

私は、マザーを見て深く頷きました。

「私達は、この日が来ることをずっと待っていたのです。」

その時上空で、複数のペガサスが羽をはばたかせる音がしました。

私は、あらかじめペガサス騎士団にお願いして、三ツ星の3賢者をこのアルニラム星へと連れてきてくれるようお願いしてあったのです。

アスクレピオス様も一緒にいらっしゃって、マザーに3賢者の様子をご説明してくださっています。

そして、私達の目の前に、ペガサスに乗った3賢者が次々と降りてきました。

白い服を着たアルニラム星の賢者、青い服を着たミンタカ星の賢者、オレンジ色の服を着たアルニタク星の賢者が地上に降り立ちました。

マザーは、賢者たちに駆け寄り、涙を流しながら抱きしめています。

「お帰り、お帰り、」と言葉にならない喜びの音がきこえてきます。

賢者たちも、さすがにマザーの前ではまだまだ子供です。

お母さんにすがって泣き出してしまいました。

彼等が、長い間、二ハル星の闇の中に閉じ込められていた間に考えていた事は、このマザーの事だったかもしれません。

きっと、私達の時間では計り知れないくらい長い年月を、孤独と悲しみに耐えて生きてきたのでしょう。

その様子を見ている私達も、自然と涙があふれます。

この光景を見て、美緒さんも泣き出してしまいました。

私が彼女を見ると一言「私にだって悲しいことがあるの。」と言って下を向いてしまいました。

そういえば、彼女はお母さんを小さい頃になくしてしまったので、お母さんことを思い出しているのかもしれませんが。

しばらく、マザーと三ツ星の賢者たちの抱擁が続いています。

私達は、この間に女神アテナ達と共に、三ツ星のクリスタルの復興の話を行っています。私達は、オリオン座の三ツ星であるアルニラム星、ミンタカ星、アルニタク星のクリスタルを活性化し、リゲル星が回復した時に、ペテルギウス星の創造主の光を、しっかりとリゲル星に流すことができるようにしておかなければなりません。

これでリゲル星のマザークリスタルが回復した時に、ペテルギウス星の光が、新たな生命創造の仕組みを生み出すことができるのです。

私達は、再会の喜びに涙する三ツ星のマスター達を伴って、それぞれの星に向かいました。各星のクリスタルは、戻ってきた主人たちを迎えて、一段と明るく輝き始めました。

本来は、とても純粋で正義感が強く、素晴らしい光を持った賢者達ですので、彼らのクリスタルも純粋な意識を保ったままです。

私達は、このクリスタルに、星に光を送るワンドでさらに輝きを与えてあげます。

それで十分なようです。

PART2 天空のクリスタルの輝きに戻る

リゲル星のマザークリスタルへと向かう日が近づいてきましたが、マザークリスタルを開くためには、7つのクリスタルとマスター

が光でつながれ、気持ちを一つにしないと開きません。

そのためには、まだ解決しなければならない問題が2つ残っています。

まずは、アスクレピオス様をお願いして、療養中の天空の女神「ラプンツエル」様を、リゲル星に戻してもらいました。

天空のクリスタルをつかさどる女神ラプンツエルは、肉体的な疲労こそ残っていますが、心はしっかりとしているので大丈夫なようです。

しかし感情のクリスタルのマスターであるプレートと感情のクリスタルは、あまりにも深い闇に飲み込まれていたために、マザークリスタルへつながるのは不可能の様な気がします。

この事に関しては、ペテルギウス星の創造主も、どのようにしたら良いか考えていらっしゃるようです。

女神ペレーネ、女神セラル、女神メリールが待っている所に、天空のクリスタルの女神ラプンツエルが、ペガサスに載って降りてきます。

大きな純白の羽を広げたペガサスが、天空の塔の前に降りると、女神たちが嬉しそうに駆け寄っていきます。

「ラプンツエル様、、、」とだけ言って、後は言葉にならず、女神たちはお互いに抱き合っていて泣いています。

その姿を見ている私達も、胸が熱くなります。意識のクリスタルのマスター・イーグルは、恥ずかしそうに少し離れた所で見ているようですが、きっと後で女神ラプンツエルのもとに謝罪に行くことでしょう。

女神たちの涙も収まったところで、私達は、天空のクリスタルの活性化を行わなければなりません。

塔の中ほどに配置されているクリスタルのもとに移動します。

女神ラプンツエルはまだ十分に歩けないようですので、アルケイデースが抱えて階段を上がっていきます。

その姿をみて美緒さんがうらやましそうです。

いつもは気が強い彼女ですが、たまには力強い男性からお姫様抱っこをしてもらいたいようです。

前回、私達は天空のクリスタルの活性を試みましたが、やはり女神が居ない事には、クリスタルの輝きが戻りません。

今日は、女神ラプンツエルも元気になって戻ってきましたので、きっとクリスタルの活性が上手くいく事と思います。

私達はいつものように、大天使ラジエル様に神聖幾何学を描いてもらい光のワンドでクリスタルに光を送ります。

そしてペテルギウス星の創造主にも光を送ってもらいます。

女神ラプンツエルも天空のクリスタルに向けて祈りを懸命に捧げているのですが、クリスタルの輝きが途中で失われていきます。他のクリスタルの女神たちも女神ラプンツエルを支える様に共に祈っていますが、輝きは完全には戻りません。

いったいどうすればよいのか、わからないまま時間が過ぎていきます。

その時、葵さんが、部屋の片隅に置いてあった毛むくじゃらの犬のぬいぐるみが光を発していることに気づきました。

葵さんが、この犬のぬいぐるみを胸にあて、ぬいぐるみからメッセージを受け取っているようです。

「どうか、女神ラプンツエル、元気を出して、君ならやれるはずだよ。

女神ラプンツエル、もっと自分を信頼して。」

このメッセージを聞いた女神ラプンツエルは、はっと気づいたように顔を上げます。

その時クリスタルに、一人の男性の姿がうつしだされます。

その姿をみた女神ラプンツエルの目に涙が光ります。

女神ラプンツエルは、葵さんが差し出した犬のぬいぐるみを抱きしめています。

女神セラルが、私たちにその男性の事を教えてくれます。

「彼は、私たち女神とクリスタルを守る親衛隊の隊長だった方です。

彼はとても力強くて優しいお方でした。

私達を守護してくれるだけでなく、私達の悩みにも親身になって応えてくれていました。

そして、私達だけでなく、リゲルの人々すべてを愛していたのです。

彼は特に女神ラプンツエルの事を大切にしていました。

それは、彼女がこの星の中心ただただでなく、女性としても深く愛していた為です。

女神ラプンツエルも彼の事を信頼して、リゲル星で起こった事を、彼と共に解決していました。

ところが、突然彼が居なくなってしまったので、リゲル星の人々はみんな心配していました。

そして、その後すぐに、リゲル星に大きな闇が襲ってきたのです。」

その時、クリスタルに一つの映像がうつしだされました。

最初は、女神ラプンツエルとこの親衛隊の隊長であるブルートが仲良く仕事をしている映像でしたが、次のシーンでは、感情のクリスタルのマスターであるピラートが、女神ラプンツエルの父親でありリゲル星の王様に、女神ラプンツエルとブルートの事を密告しているようすでした。

ピラートは、親衛隊の隊長であるブルートが、女神ラプンツエルを誘惑して結婚することで、王様の椅子を狙っているという内容のことでした。

次のシーンでは、王様が、女神ラプンツエルの知らない所で隊長のブルートを呼び出し、拷問をした後で犬のぬいぐるみに変えてしまったのです。

女神ラプンツエルはその映像を見ると気絶しそうに驚いてしまいました。

なぜなら、親衛隊の隊長であるブルートは、自分の事が嫌いになって、他の女性と共に他の星に行ってしまったと、感情のクリスタルのマスターであるピラートから聞かされていたからです。

女神ラプンツエルは、その事でとても大きなショックをうけてしまったのです。

そしてその時に、ピラートから親衛隊の隊長であるブルートを諦めて自分と一緒にしろと言われてたそうです。

もちろん女神ラプンツエルはその申し出を断りました。

その後、ピラートは、自分のいう事を聞かない女神ラプンツエルをとらえ、乱暴した後に鎖でつなぎ放置したようです。

次々とクリスタルに映し出される映像に、女神たちも大きなショックを受けて言葉を失っています。

リゲル星が闇に落ちて行く過程でこのようなピラートの策略と暴挙があった事は女神達も知りませんでした。

恐らく、ピラートがトート神の教育で立ち直ったとしても、リゲル星の大切なクリスタルを預かるのはとても無理でしょう。

女神ラプンツエルの涙が、ぬいぐるみに落ち続けます。

するとその時、クリスタルが大きくかがやきました。

私達は、そのまぶしさに目を閉じました。そして目を開けた時、そこに立っていたのは、親衛隊の隊長であり女神ラプンツエルの恋人であるブルート本人でした。

ブルートは、女神ラプンツエルに手を差出し、彼女の涙をふき取りました。

でも、ブルートがふき取っても、ふき取っても、女神ラプンツエルの目からは涙が落ち続けています。

2人は、長い時を超えて再開し、新たな時間をこれから刻みはじめることでしょう。

天空のクリスタルが、2人の愛によって、今までに見たこともないくらい大きく輝き始めました。

PART3 愛のクリスタルとマスターブルート

女神たちも私達も言葉を失い、ただ2人の様子を見守っています。

私達の周りにとっても大きな愛のエネルギーが満ち溢れています。

遥さんたちもその美しい光景にため息をついています。

私はその時、2人の姿を見て、リゲル星の新しいクリスタル・マスターは、ブルートしかないと思いました。

私は、ペテルギウスの創造主に、リゲル星の為に新しいクリスタルをお願いする事にしました。

「創造主よ、あなたも、このリゲル星の美しい2人の姿をご覧になっていると思いますが、私は、ピラートの感情のクリスタルの代わりに、ブルートをクリスタル・マスターに任命して「愛のクリスタル」をリゲル星に置きたいと思いますが、いかがでしょうか。そして天空のクリスタルと愛のクリスタルを同じ次元に置き、このリゲル星を愛の星にしたいと思います。」

創造主は、私達ににこやかに笑って答えます。

「TAKESHIさん、そしてリゲル星の皆さん、それはとても良い考えです。

私も、2人の愛情深い姿を見て心を打たれました。

この2人の愛は、リゲル星にとっても素晴らしい光となるでしょう。

三ツ星の3賢人たちもこのような素晴らしい愛に出会えると良いのですが、、」

創造主は、女神ラプンツエル達の幸福そうな姿を見て、自分の息子達も、素晴らしい愛に目覚めてくれるように願っているようです。

三ツ星の賢者たちのマザーからも嬉しいメッセージが届きます。

「TAKESHI さん、そして皆さん本当にありがとうございます。

やはりこの宇宙の第1の原理は愛ですから、愛のクリスタルが設置されることはとても喜ばしい事です。

感情はいつも移り変わり不安定です。

そして感情は人を幸福にすることもあれば、人を不幸にすることもあります。

特に怒りや憎しみの感情は、人々の心を捕え、闇へといざないます。

しかし、人を愛する気持ちは、人々を神聖さへと導きます。

リゲル星の女神ラプンツエルは、私達にとっても娘のような存在です。

彼女が本当の愛に目覚め、リゲル星を愛の星にしてくれることが、私達の最大の願いでした。

愛のクリスタルは、私と創造主から、ブルートさんに贈らせていただきますので、どうかあなたの愛で、女神ラプンツエルとリゲル星の人々を素晴らしい世界に導いてください。」

創造主とマザーの言葉を、愛のクリスタルのマスターとなったブルートは真剣に聞いていました。

そして、マザーの言葉が終わると、礼儀正しく立ち上がり、創造主とマザーに感謝の言葉を述べます。

「偉大なるペテルギウスの創造主様、そして万物の母親であるマザー、私達の為に素晴らしいお言葉を頂き大変有難うございます。私は女神ラプンツエルをリゲル星の偉大なる女神として尊敬しておりますし、女性としても心より愛しております。

私達は、2人でこれからも愛をそだて、愛の力によってリゲル星をしっかりと守護していきます。

どうかこれからもお導き下さい。」

ブルートがその言葉を言い終わると、天空のクリスタルの横に、大きな輝きが生まれています。

その輝きは時間をかけてゆっくりと固まり、大きなクリスタルとなりました。

リゲル星に愛のクリスタルが生れてきたのです。

天空のクリスタルは白銀に輝く神聖な光を持っていますが、愛のクリスタルはローズクォーツに似たやわらかい乳白色の光に満ちています。

皆さんが、深い感動の声を上げています。

葵さんや美緒さんは、愛のクリスタルに駆け寄り、クリスタルに抱きつき頬を寄せて「愛のクリスタルよ、私にも愛をたくさんください。」と、お願いしています。

女神ラプンツエル達の姿をうらやましく思い、こんな素敵な男性に出会えたらと真剣に祈っているようです。

それもどうかな、と私は思いますが、幸福な2人は微笑ましく彼女達の姿を見えています。

愛のクリスタルのマスター、ブルートは創造主とマザーにクリスタルのお礼を言っています。

「偉大なる創造主よ、偉大なるマザーよ、私どもに素晴らしい愛のクリスタルをいただき大変ありがとうございます。

私達は、天空のクリスタル同様、愛のクリスタルを大切にしていってリゲル星を守っていきます。」

2つのクリスタルが、今まで以上に美しく輝き、クリスタル同士の共鳴によって厳かな音を奏でています。

今回、私達にこのミッションを託した女神アテナもとても嬉しそうです。

親衛隊に見られないように横を向いて涙をぬぐっています。

騎士団の団長たちもさすがに涙をこらえきれないようです。

しかし、ここで歩みを止める訳にはいきません。

さあ！私達の次の計画は、リゲル星のマザークリスタルと次元上昇です。

PART4 リゲル星のマザークリスタル

天空のクリスタルと他のクリスタルをつなぐ時が来たようです。

今回の星のツアーが行われる前に、女神アテナとトート神によって、リゲル星のクリスタル達は、再度調べられ、活性化が不十分なクリスタルは再度活性を行っていただきました。

特に意識のクリスタルは、ペテルギウスの創造主も力を貸してくださり、活性を行っています。

これから、私達は、天空のクリスタルと愛のクリスタルを中心にして、各クリスタルの光をつなげていきます。

そうすることでリゲル星のマザークリスタルと他のクリスタルが一つにつながり、大きなエネルギーが生み出され、リゲル星を闇の

世界から光の世界へ次元上昇させることが出来るのです。

リゲル星のクリスタルが一つになるときが来ました。

各クリスタルのマスターと女神は、それぞれの場所でクリスタルと共に祈り始めました。天空のクリスタルの女神と愛のクリスタルのマスターが、それぞれのクリスタルの前に並んで座りました。

女神ラプンツエルは、神聖な歌を歌い始めます。

マスターブルートは大きく両手を広げ、創造主に祈りを捧げています。

意識のクリスタルのマスターは、眺めがよい丘の上で、クリスタルとひとつにつながり祈っています。

吹き抜ける風や鳥たちのさえずる声がクリスタルに共鳴して甲高い音を生みだしています。

動物たちの生命をつかさどるクリスタルは、丘のふもとに作られた神殿で、女神ペレーネを中心に巨人族や小人族、そしてたくさんの動物たちと共に祈りを捧げています。

隠れていた動物たちも戻ってきて新しい生命もたくさん誕生しています。

森の生命、植物や水の生命を守るクリスタルは、湖のそばにある神殿で女神メリールと共に多くのマーメイド達が喜びの歌を歌っています。

湖の魚たちも森の精霊たちも蘇り、森は賑やか輝きで満たされてきました。

生命ある物たちを守るクリスタルは、もうすでに周りは美しい野原となった場所で、樹木の精霊たちもたくさん生まれ集っています。彼らの歌は、木々のざわめきのように野原を渡り、広がっていきます。

星の生命力・エネルギーの再生をつかさどるクリスタルは、海のそばにある神殿で、女神セラルがイルカやクジラたちと共に歌を歌っています。

彼等の声は、海の中に満ち溢れ生命の新たな誕生を歓んでいるようです。

私達は、天空の塔の最上階に立ち、創造主の光を天空の塔に呼び込むと同時に、ペテルギウスのダイヤモンドに属する星々のエネルギーをリゲル星のために送ってくれるよう祈りました。

天空の塔はどんどん輝きを増し、塔自体が大きなクリスタルのように神聖な光を放ちはじめます。

天空の塔から、リゲル星の他のクリスタルへと光が送られていきます。

それは、神聖な宇宙のエネルギーと愛のエネルギーに満ち溢れた光です。

他のクリスタルのマスター達も、天空のクリスタルと愛のクリスタルの光を受け取り、自らのクリスタルとひとつにつなぎました。

すると、各マスター達のクリスタルは、さらに大きな光を周りに発していきます。

リゲル星がどんどん光で満たされていきます。

大地には美しい花が咲きあふれ、樹木には花や果実が満ち溢れていきます。

花の周りにはたくさんの昆虫が集まり、樹木では鳥たちが羽を休め、動物たちはその木陰で体を癒しています。

海には、クジラやイルカたちが泳ぎ回り、小さな魚たちも群れをなして回遊しています。

するとこの天空の塔のさらに上に大きなマザークリスタルが、うっすらと見え始めました。

リゲル星のマザークリスタルです。

女神ラプンツエルが、マザークリスタルが現れたことに気づいたようです。

天空のクリスタルの光を上空に向けて、マザークリスタルとつなげていきます。

ブルートも愛のクリスタルの光をマザークリスタルとつないでいきます。

マザークリスタルの大きな輝きが、天空のクリスタルと愛のクリスタルに降り注いでいきます。

そして2つのクリスタルから、それぞれのクリスタルへ光が広がっていきます。

リゲル星が一段と大きな光で満たされていくと同時に、細かい振動が星をつつみます。その振動は、少しずつ大きくなっていきます。

まるでマザークリスタルが、天空のクリスタルと愛のクリスタルをとおして、リゲル星を引き上げていくような振動です。

リゲル星の次元上昇が始まったようです。

私は、ペテルギウスの仲間の星たちに呼びかけます。

「どうかリゲル星に光をつないでください。闇に落ちたリゲル星を光の世界に戻してください。」

星々の全ての光が、まずペテルギウス星に集まります。

大犬座のシリウス星、小犬座のプロキオン星、ふたご座のボルックス星とカストル星、ぎょしゃ座のカペラ星、そしておうし座のアルデバラン星がその中心となるペテルギウス星に光を送ります。

それらの光は創造主によって一つにされ、オリオン座の三ツ星へと送られます。

三ツ星の賢者たちはその光を使って、リゲル星の次元上昇を行うようです。

三ツ星の賢者からメッセージが届きました。

「TAKESHI さん、そしてリゲル星の女神やマスターの皆さん。

いま、多くの星から皆さんの星に向けてエネルギーが送られてきています。

リゲル星は、今はまだ闇の世界の中にいますから、星に直接光を送れませんので、私達三ツ星でエネルギーを変換して、マザークリスタルを通して送ります。

チャンスは少ないので、マザークリスタルを通してエネルギーを受け取ったら、一気に上がってきてください。」

これからが本番です。

女神ラプンツエルが女神やマスター達にメッセージを送ります。

「皆さん、今日はリゲル星が生まれ変わる日です。

TAKESHI さんやペテルギウスの仲間たちの愛によって私達は救われました。

皆さんの祈りと希望によって、私達は光の世界に帰ることが出来ます。

ペテルギウスの星々のエネルギーが今からクリスタルを通して送られます。

皆さん、心をひとつにして光の世界に向けて祈りをささげてください。」

女神やマスター達がすかさず「はい！」と返

事を返してきました。

それぞれのクリスタルの場所でも大きな緊張が走っているようです。

大空に輝くマザークリスタルから黄金色に輝く光が舞い降りてきました。

天空のクリスタルと愛のクリスタルが黄金色に輝きました。

目を開けていられないくらいの光ですが、女神ラプンツエルとブルートは手をしっかりとつなぎ、お互いのクリスタルを支えています。

おそらく女神ラプンツエル一人では、この光を受け取る事は不可能だったかもしれません。

ブルートが女神ラプンツエルをしっかりと支えています。

黄金色の光が、天空のクリスタルと愛のクリスタルから大きくスパークして、他の5つのクリスタルに送られていきます。

それぞれのクリスタルでも、女神と女神を支える生命達が、必死でその光を受け止めています。

意識のクリスタルには、トート神がサポートに来て、意識のクリスタルのマスターを支えています。

他のクリスタルは、周りにいる動物や植物、魚たちの意識が一つになって光を支えています。

やがて黄金色の光が、各クリスタルをとおしてリゲル星の様々な場所と次元に満ち溢れていきました。

するとリゲル星をつつんでいた振動が一気に高まり、リゲル星が次元上昇をはじめました。

リゲル星は、少しずつ闇の世界を抜け、神々しい太陽の光が待つ光の世界へと入って行きました。

リゲル星が今までとは異なる美しい光りで満たされたとき、リゲル星の様々な場所で歓声が聞こえます。

リゲル星が、長い間の闇の支配から抜け出し、光の世界へと戻ってきたのです。

黄金色の光がずっとクリスタルから消えていきましたが、リゲル星そのものが黄金色の光を放っています。

女神ラプンツエルが女神とマスター達に喜びの声を伝えます。

「女神よ、そしてマスター達よ、私達は光の世界に戻ってきました。

私達は、再び間違いを犯すことなく、リゲル星と宇宙のために奉仕することを誓いましょう。

そして TAKESHI さんとペテルギウスの仲間達に深く感謝しましょう。」

様々な場所から、私達に対する賛辞の声が届いてきますが、ちょっと恥ずかしい気もします。

私は、女神アテナから進められて、皆さんの声に応えます。

「リゲル星の皆さん、皆さんが光の世界に戻って来れた事を私達は心からうれしく思います。

これも勇気ある女神達の力です。

これからも、女神達とひとつになって素晴らしいリゲル星を作ってください。」

今回の星のツアーはとても感動的な旅でした。

リゲル星の女神達はこれから新しい生活に向けて様々な準備があるようです。

私達の仕事はこれで完了のようです。
女神アテナが、私達を見てにっこりと笑っています。

私達もこれで素晴らしい思い出の星リゲルを後にして地球に戻ります。